

(別表)

航路 定限	遠洋航汽船		近海航汽船			沿海航汽船		平水航汽船	
	三百噸以上	三百噸未満	五百噸以上	五百噸未満	百噸以上	百噸未満	二百噸以上	二百噸未満	百噸以上
職員名稱	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長	一等船長 二等船長 三等船長 一等船副長 二等船副長 三等船副長
免狀種類	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀	一等免狀 二等免狀 三等免狀
定員	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長	士長士長 士長士長 士長士長

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル砂糖、糖蜜、糖水ノ課税ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年九月三十日

律令第十二號(官報十月十六日)

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 明治三十四年法律第十三號砂糖消費税法施行前製造場ヨリ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニ

付テハ明治三十四年十月二十日迄ニ其ノ旨ヲ地方官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタル砂糖ニ付テハ明治二十九年法令第十一號糖業税則ヲ適用シ直チニ其税金ヲ納付セシム

第二條 前條ノ届出ヲ爲ササル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ砂糖消費税法ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ明治三十四年十月二十一日現ニ砂糖、糖蜜、糖水ヲ藏置スル場所ハ砂糖消費税

法中製造場ト見做シ砂糖、糖蜜、糖水ヲ所持スル者ハ同法中ノ製造スル者又ハ製造者ト見做ス但

シ届出ヲ爲ササル砂糖ヲ十月二十日以前ニ本島外ニ搬出スル場合ニ在テハ搬出者ヲシテ納税セ

シム

附則

本令ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣關稅規則並臺灣輸出税及出港稅規則ニ依ル訴願ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十月二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十三號 (官報十月十六日)
臺灣關稅規則並臺灣輸出稅及出港稅規則ニ依ル訴願ニ關シテハ明治二十三年法律第一百五號訴願法ヲ準用ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル地方行政區畫ノ廢置分合ニ依リ地方稅經濟ニ屬スル財產ノ處分ニ關スル件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十四號 (官報十一月二十六日)

地方行政區畫ノ廢置分合ニ依リ地方稅經濟ニ屬スル財產ノ處分ヲ要スルトキハ臺灣總督之ヲ定ム
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣船籍規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十五號 (官報十一月二十六日)

明治三十一年律令第四號臺灣船籍規則中第一條第一項中「所轄辨務署」ヲ「所轄地方官廳」ニ改メ同條末項中「所轄辨務署」經由シテ「ヲ削ル

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル民事商事及刑事ニ關スル律令施行規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十六號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年律令第九號民事商事及刑事ニ關スル 律令施行規則中「辨務署長」ヲ「廳長」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣地方稅規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十七號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年律令第十七號臺灣地方稅規則第六條中「辨務署費」ヲ「地方廳費」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣獸疫豫防規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十八號 (官報 十一月二十六日)

明治三十二年律令第四號臺灣獸疫豫防規則中「所轄辨務署」ヲ「所轄地方官廳」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル律令中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第十九號 (官報 十一月二十六日)

明治三十二年律令第十三號外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル律令中辨務署長ヲ「廳長」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル重罪輕罪控訴豫納金規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第二十號 (官報 十一月二十六日)

明治三十一年律令第二十五號重罪輕罪控訴豫納金規則中「所轄辨務署長支署長」ヲ「所轄廳長又ハ支廳長」ニ「辨務署支署」ヲ「廳又ハ支廳」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣水難救護規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第二十一號 (官報 十一月二十六日)

明治三十三年律令第八號臺灣水難救護規則中「辨務署長」ヲ「廳長」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣土地收用規則中改正律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十四年十一月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

律令第二十二號 (官報 十一月二十六日)

明治三十四年律令第三號臺灣土地收用規則中「辨務署長」ヲ「地方長官」ニ改ム

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經テ臺灣辯護士規則中改正ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス
 明治三十四年十二月十四日
 臺灣總督 男爵兒玉源太郎
 律令第二十三號 (官報 明治三十五年一月四日)
 明治三十三年律令第五號臺灣辯護士規則第三條ヲ左ノ通改正ス
 第三條 辯護士ノ懲戒處分ニ付テハ明治三十一年律令第十八號臺灣總督府法院判官懲戒令ノ規定
 ヲ準用ス但懲戒委員會ハ覆審法院檢察官長ノ申立ニ依リ之ヲ開始ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

〔參照〕

律令第五號臺灣辯護士規則(明治三十三年二月七日官報)抄錄
 第三條 現在ノ訴訟代人ハ當分ノ内其職務ヲ行フコトヲ得

法令全書

閣令

○閣令第一號

巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令ニ依リ内閣恩給局長ノ管掌ニ屬スル巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規程左ノ通之ヲ定ム

明治三十四年八月一日

内閣總理大臣子爵桂 太郎

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ一時金ヲ受クヘキ者ハ退職當時ノ本廳ノ長官ニ請求スヘシ但シ廢官廢廳ニ當リタルトキハ其ノ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 在職履歷書
- 二 戶籍謄本

但シ一時金請求書ニハ戶籍謄本ノ添付ヲ要セス

巡查看守退隱料及遺族扶助料法第三條第一項及第四條第三項ニ依ル退隱料年額増加ノ請求書ニハ前項書類ノ外前ニ受ケタル退隱料證書ヲ添付スヘシ

第三條 職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲クル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スヘシ

- 一 傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムヘキ證據書類
- 二 醫師ノ診斷書

第四條

巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戸籍謄本及第五條乃至第十一條ノ書類ヲ添付シ任所地ノ地方長官ニ請求スヘシ

第五條 巡査看守退隱料及遺族扶助料法第七條第一項第一號又ハ第二號ニ當ル者アリタルトキハ本廳應ヨリ死亡者ノ履歷書ヲ其ノ遺族ニ下付スヘシ同條第一項第三號末段又ハ同條第二項但書ニ當ル者ノ遺族ニ請求アルトキ亦同シ

第六條 巡査看守退隱料及遺族扶助料法第七條第二項第一號又ハ同條第二項但書ニ當ル者アリタルトキハ本廳應ニ於テ事實ヲ查察シ其ノ傷痕又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ診斷書ヲ併セテ其ノ遺族ニ下付スヘシ

第七條 退隱料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スルモノハ死亡者ノ受ケタル退隱料證書ヲ添付スヘシ

第八條 扶助料ヲ受ケタル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添付スヘシ

第九條 重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ヲ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第十條 六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十一條 巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十條又ハ第十三條ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書篤疾又ハ癱疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十二條 退隱料又ハ一時金ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查察ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在職年數及退隱料年額又ハ一時金計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查察ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條 内閣恩給局ニ於テ退隱料、扶助料又ハ一時金ノ支給ヲ許可シタルトキハ證書ヲ作り本人任所地ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付スヘシ但シ退隱料又ハ一時金ノ證書ヲ下付スルトキハ先ツ第一條ニ依リ請求ヲ爲シタル官廳ヲ經由スヘシ

前項ノ證書ヲ下付シタルトキハ内閣恩給局ハ其ノ旨ヲ支給主管省ニ通知スヘシ

第十四條 退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料又ハ扶助料ヲ受ケタル者死亡シ又ハ權利ノ消滅若ハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十五條 退隱料又ハ扶助料ヲ受ケタル者重罪若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其ノ確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ支給主管省ニ通知スヘシ

第十六條 巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ當ル者アルトキハ其ノ任用シタル官廳ヨリ支給主管省ニ通知スヘシ爾後其ノ俸給額ニ異動アルトキ及解任シタルトキ亦同シ但シ該通知書ニハ支給應名、俸給額及其ノ支給ヲ始ムル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十七條 支給主管省ニ於テ前二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局及支給廳ニ通知スヘシ

第十八條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ之ヲ支給應ニ届出ヘシ

第十九條 支給應ニ於テ退隱料又ハ扶助料ノ支給ヲ廢止シ若ハ停止シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ支給主管省及内閣恩給局ニ通知スヘシ但シ支給主管省ヨリ權利ノ消滅若ハ停止ニ關シ通知ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ住所地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ死亡ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此ノ場合ニ於テ恩給局ハ證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第二十一條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ第十三條ノ證書ヲ添ヘ住所地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ内閣恩給局及支給主管省ニ通知スヘシ

附則

第二十二條 巡查看守給助例ニ依リ退職給助、傷痍給助又ハ死亡給助ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ハ其ノ給與ノ種類ニ從ヒ退隱料、一時金又ハ扶助料ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ニ準シ第十四條ヲ除クノ外本令ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本令ニ於テ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第二十四條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法令全書

省令

○陸軍省令第一號

明治三十二年陸軍省令第十六號陸軍旅費規則中左ノ通改正ス

明治三十四年一月七日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第七條第二項但書中依リ「依ルニ改メ」臺灣内ノ旅行ニ在テハ臺灣郵便線路圖ニ依ルヲ削ル

第八條第一項中「水路五海里未滿ノ地ニ旅行スルモノ」ノ下ニ「要塞備附小蒸汽船又ハ舢舨ヲ以テ當該要塞地内ヲ航行スル者」船員ヲ含ム及憲兵警察勤務執行上重要附近ヲ航行スル者ヲ加フ

第十九條 准士官以上營外居住下士以下及文官赴任ノトキハ第一表ノ外第二表ノ移轉料ヲ給ス陣營官衙移轉陣營移轉ニ在テノトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ家族父母妻子女ヲ携行スル者又ハ其際家族父母妻子女ヲ携行セス他日移轉セシムル者ニハ新舊任地間更ニ第一表ノ運搬費ヲ給ス

第二十條中「給シ」ノ下ニ「移轉料ハ前條ニ依ルヲ加ヘ」前條以下及但書ヲ削ル

第二十一條第二號中「傷痍」ノ上ニ「諸生徒」ヲ第三號中「及」ノ下ニ「學生」ヲ加ヘ第四號中「諸學校教導團」ヲ削リ「入校」ノ下ニ「入營」ヲ加ヘ第九號中「及豫備役後備役ノ兵卒」ニシテ生徒志願ニ依リ召喚セラレタルトキヲ削ル

第二十二條第四項中「諸學校」ヲ削ル

第二十五條第三項中「職務ニ轉シ」ノ下ニ「臺灣及韓國駐節部隊附ニシテ内」ノ割註ヲ第二項中「命セ

三 准士官以下ニシテ士官候補生並諸生徒トナリ入寮ノトキ及諸生徒事故ニ依リ軍隊ニ入寮ノトキ
 四 華士族平民ヨリ諸學校教導團ノ生徒トナリ入寮ノトキ
 九 地方幼年學校生徒卒業ノ上中央幼年學校へ入寮ノトキ及豫備役後備役ノ兵卒ニシテ生徒志願ニ依リ召喚セラレタルトキ

第二十二條第四項

諸學校學生生徒野外作業ノ爲メ旅行セシムルトキハ出發當日ヨリ歸著當日マテ第四表ニ依リ別ニ第六表ノ額ヲ給ス
 第二十五條 乘馬ノ職ニアル者赴任ノトキ馬匹運送ノ者ニハ其ノ馬數ニ應ジ第八表ノ旅費ヲ増給ス但シ濠洲及韓國内ニ在テハ實費ヲ給ス

乘馬ノ職ニアラサレ職務ニ轉シ赴任スル者ハ前項ノ限ニアラス
 公務ノ都合ニ依リ特ニ乘馬ニテ旅行ヲ命セラレタル者ハ第一項ニ同シ

第二十六條 管内居住ノ特務曹長下士以下轉地檢査ノ爲メ旅行セシムルトキハ第四表ニ依ル但シ轉地檢査者ニ在テハ定額内ヲ以テ實費ヲ給ス

第二十七條 休職ノ者及豫備役後備役准士官以上下士兵卒 歸休兵 補充兵國民兵役ニ在ル者並休職及豫備理事召集ノトキハ陸路里程ニ應ジ第九表ノ旅費ヲ給ス其ノ歸郷セシムルトキ亦同シ但シ船舶ニアラサレハ旅行シ雖キ地方ニ在テハ一海里以上ハ船賃ヲ給ス若シ該船賃ノ定額ニ依リ難キ場合ニ在テハ其ノ地方ニ依リ實費ヲ給スルコトヲ得

第三十一條 濠洲内ノ旅行ニ限リ第十二表ノ旅費ヲ給ス其ノ陸路ヲ爲ス者ニ在テハ實費支辨トス
 韓國駐劄部隊又ハ該部隊ニ關スル用務ニ依リ該國內ノ旅行ニ在テハ總テ實費ヲ給ス

○司法省令第一號

一 札幌地方裁判所管内札幌區裁判所旭川出張所ハ之ヲ廢止ス
 同地方裁判所管内札幌區裁判所滝川 歌志内ノ兩出張所ハ 同地方裁判所管内旭川區裁判所ノ出張所トス

一 根室地方裁判所管内根室區裁判所北見出張所ハ之ヲ廢止ス
 同地方裁判所管内根室區裁判所紋別出張所ハ 同地方裁判所管内網走區裁判所ノ出張所トス

本令ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

明治三十四年一月十二日

司法大臣男爵金子堅太郎

○司法省令第二號

根室地方裁判所管内釧路區裁判所大津出張所管轄十勝國中川郡止若村 咩別村 白人村 幕別村 別奴村
 同區裁判所帶廣出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス

明治三十四年一月十七日

司法大臣男爵金子堅太郎

地方裁判所	區裁判所	出張所	國	郡	市	區	町	村
根室	釧路	大津	十勝	中川郡	幕別村	止若村	咩別村	白人村
				中川郡内	湖寒村	十勝村	樽舞村	智牛村
帶廣	十勝	十勝	十勝	河西郡	河東郡	上川郡	中川郡内	止若村
				河西郡	河東郡	上川郡	中川郡内	止若村
帶廣	十勝	十勝	十勝	河西郡	河東郡	上川郡	中川郡内	止若村
				河西郡	河東郡	上川郡	中川郡内	止若村

○司法省令第三號

札幌地方裁判所管内旭川區裁判所歌志内出張所管轄石狩國空知郡富良野村ヲ同區裁判所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
 本令ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

明治三十四年一月二十一日

司法大臣男爵金子堅太郎

地方裁 判所	區裁判所	出張所	國		管	市	區	町	村
			石狩	天鹽					
札幌	旭川	歌志内	石狩	天鹽	上川郡	空知郡	空知郡	富良野村	上川郡
			石狩	天鹽	空知郡	空知郡	富良野村	上川郡	歌志内村

○文部省令第一號

明治三十一年文部省令第七號中左ノ通改正ス

明治三十四年一月四日

第一條六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

文部大臣松田正久

七 試験ヲ經テ帝國大學醫科大學國家醫學講習科ニ入學シ同科ヲ修了シタル者
第二條中帝國大學醫科大學國家醫學講習科修了ノ者又ハテ創ル

〔參照〕

明治三十一年二月二日文部省令第七號ハ學校醫ノ資格ヲ定ムル件ナリ

○文部省令第二號

小學校令施行規則中左ノ通追加ス

明治三十四年一月十二日

文部大臣松田正久

第六十三條ノ二 小學校教科用圖書ノ審査又ハ採定ニ關シ其ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ノ一ニ該當

スル所爲アル者ハ二十五日以下ノ重禁錮又ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ官吏、學校職員若ハ運動者ニ供與シ又ハ供與セントシテ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セントシテ周旋勸誘シタル者竝ニ供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
- 二 直接又ハ間接ニ酒食遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝ニ此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
- 三 官吏、學校職員又ハ其ノ關係アル學校法人等ニ對スル利害ノ關係ヲ利用シ直接若ハ間接ニ官吏、學校職員ヲ誘導シ又ハ威逼シタル者及其ノ誘導威逼ニ應シタル者
- 四 官吏又ハ學校職員ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ誘引シタル者
- 五 審査又ハ採定ヲ妨クル目的ヲ以テ新聞紙雜誌張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス官吏又ハ學校職員ニ對シ虚偽ノ事項ヲ流布シタル者

第六十三條ノ三 小學校教科用圖書ノ審査又ハ採定ニ關シ刑ニ處セラレタル者アルトキハ其ノ者ノ運動ノ目的タル圖書ノ審査又ハ採定ヲ無効トス但シ既ニ使用ヲ始メタル圖書ハ其ノ學年内ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

小學校教科用圖書ノ審査又ハ採定ニ關シ刑ニ處セラレタル者ノ發行ニ係ル圖書ハ裁判確定ノ日ヨリ五箇年間之ヲ採定スルコトヲ得ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信省令第一號

明治三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則第二條地名及料金表中「本邦シカゴ間」ノ下「一圓四十二錢八厘」ヲ「一圓四十二錢」ニ改メ本日ヨリ施行ス

明治三十四年一月十七日

逓信大臣原 敬

○逓信省令第二號

集合電報規則左ノ通相定ム

明治三十四年一月十八日

逓信大臣原 敬

集合電報規則

第一條 長崎上海間海底電信線ニ依リ在清國大沽以北各地本邦陸軍軍人軍屬ト其在本邦親族知己トノ間ニ往復スル電報ハ集合電報トシテ發送スルコトヲ得

第二條 集合電報ハ羅馬文字ニテ綴リタル普通ノ日本語又ハ普通ノ歐洲國語ヲ以テ家事上又ハ社交上ニ關スル事項ニ限リ書載スヘキモノトス

第三條 集合電報ハ至急返信料前納照校受信報知追尾再送若ハ同文ト爲スコトヲ得ス

第四條 本邦ヨリ發送スル集合電報ハ其類信紙餘白ニ「長崎局集合」ト附記シテ郵便電信局電信局ニ差出スヘシ

第五條 郵便電信局電信局ニ於テ集合電報ヲ受付タルトキハ之ヲ長崎郵便電信局ニ傳送シ長崎郵便電信局ニ於テ凡テ之ヲ一通ニ編成シ「Yuzushicho」ナル宛名ヲ附記シテ一日一回ヲ限リ更ニ發送スルモノトス

第六條 清國ヨリ發送シテ本邦ニ著スル集合電報ニシテ「Telegraph office Nagasaki」ナル宛名ヲ附記

シタルモノハ長崎郵便電信局ニ於テ之ヲ各通ニ分記シテ更ニ各受信人ニ送達スルモノトス

第七條 集合電報ノ料金ハ通常海外電報料金ノ半額トス但シ郵便別使等ノ配達料ハ此ノ限ニアラズ

第八條 第五條及第六條ニ據リ集合電報ニ附記シタル宛名ハ無料トス

第九條 集合電報ノ傳送ニ關シテハ誤謬遅延不達ノ責ニ任セス

第十條 本規則ニ規定ナキモノハ海外電報ニ關スル一般ノ規定ニ據ル

附則

第十一條 本則ハ明治三十四年二月一日ヨリ施行ス

○内務省令第一號

神奈川縣橫濱港灣維持工事ニ屬スル浚渫船竝其附屬器械蒸汽脚船鐵造運搬船及小蒸汽船ノ工事ニ關スル競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條第一項ニ定ムル資格ノ外尙本令ニ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十四年二月十九日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

第一 完全ナル船渠ヲ有スル者

但入渠ヲ要スル工事ニ限ル

第二 二年以來引續キ所得稅百圓以上ヲ納ムル者

第三 合名會社ニ在リテハ其社員ノ一人合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ一人第二ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

但舊商法ノ規定ニ從ヒ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ一人其資格ヲ備フルヲ以テ足ル

第四 株式會社ニ在リテハ株金拂込額五萬圓以上

第五 株式合資會社ニ在リテハ第三合資會社ニ要スル資格若クハ第四ノ資格ノ一ヲ備フルコトヲ要ス

第六 外國會社ニ在リテハ規定ノ登記ヲ了シタルモノニシテ第三乃至第五ニ掲ケタル會社ト同種ノモノ又ハ最モ之ニ類似セルモノト同一ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

○海軍省令第一號

明治三十三年四月海軍省令第十一號海軍少主計候補生採用試驗規則及三十三年三月海軍省令第三號海

軍水路少技士候補生採用試験規則中「經理局」及「軍務局」ヲ「人事局」ニ「經理局長及軍務局長」ヲ「人事局長」ニ改ム

明治三十四年二月七日

海軍大臣山本權兵衛

○農商務省令第一號

府縣郡工業試驗場及ヒ府縣郡工業講習所規程左ノ通相定ム

明治三十四年二月四日

農商務大臣林 有造

府縣郡工業講習所規程

第一條 本規程ニ於テ工業試驗場又ハ工業講習所ト稱スルハ府縣稅又ハ郡費ヲ以テ設立スルモノヲ謂フ

第二條 府縣郡工業試驗場ハ工業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ製作技術ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フモノトス

第三條 府縣郡工業試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得

- 一 巡回講話
 - 二 工業見本品ノ配付
 - 三 原料及ヒ製品等ノ分析、試驗、鑑定
 - 四 工業用機械器具ノ檢定
 - 五 製作技術ニ關スル質問應答
- 第四條 府縣郡工業試驗場ハ試驗ノ成績ニ付キ營業者ニ傳習スルコトヲ得

第五條 府縣郡工業講習所ハ工業ニ從事スル者ヲシテ工業ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第六條 府縣郡工業講習所ハ敎學、物理、化學、圖畫等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第七條 府縣郡工業講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第八條 府縣工業試驗場又ハ府縣工業講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ

- 一 名稱及ヒ位置
- 二 業務ノ項目又ハ講習所規則
- 三 建物ノ種別及ヒ其坪數
- 四 職員ノ履歷及ヒ其擔任事業
- 五 收支豫算書

前項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第九條 前條ノ規定ハ郡工業試驗場及ヒ郡工業講習所ニ之ヲ準用ス但郡長ヨリ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第十條 地方長官ハ府縣工業試驗場及ヒ府縣工業講習所ノ業務功程ヲ調査シ毎年五月限り之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

郡工業試驗場又ハ郡工業講習所ノ業務功程ハ前項ノ規定ニ準シ郡長ヨリ地方長官ヲ經由シテ農

農務大臣ニ報告スルニ付テノ要ス

附一則

第十二條 本規程ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本規程施行前ニ設立シタル府縣郡工業試驗場又ハ府縣郡工業講習所ハ本規程施行ノ日ヨリ一年内ニ第八條及第九條ノ規定ニ準シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

○農商務省令第三號

明治三十年十二月十二日農商務省令第十九號森林法施行細則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年二月二十一日

農商務大臣林 有造

第一條 府縣知事ニ於テ公有林、社寺林及私有林ニ付森林法第三條、第四條及第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ處分ノ上農商務大臣ニ届出ヘシ

府縣知事ニ於テ森林法第七條、第二十一條乃至第二十三條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキ及前項規定以外ノ森林ニ付第五十五條ノ命令ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣知事森林法第五條、第二十四條及第五十五條ニ依リ政府ニ於テ造林執行ノ必要アルモノト認メタルトキハ實地調査ノ上別記様式ニ依リ造林事業豫算書ヲ調製シテ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ費用ノ徵收若シテ部分林トナスニ付テノ意見ヲモ具申スヘシ

第六條 左ノ但書ヲ加フ

但編入ニ付テハ保安林編入調書ノ中施業法要領ヲ適達書ニ添附スヘシ

第十一條 森林内ニ火入ヲ爲スル者ハ許可ヲ得シトスル者ハ豫定期日ヲ定メ森林官若クハ警察署ニ申出ツヘシ但火入ヲ爲サントスル森林ノ全部又ハ一部カ他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ管理

者ノ承諾ヲ證スル書面ヲ願書ニ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ (別記)

造林事業豫定案

種別	施業面積	種目	要領	數量	經費		備考
					單位	總額	
造林	4,000	苗木	切取ヨリ購入三年生	12,000	2,000	24,000	
			切取ヨリ購入三年生	1,000	0	2,000	
			切取ヨリ購入三年生	80	0.300	24,000	
			切取ヨリ購入三年生	40	0.300	12,000	
造林	10,000	苗木	切取ヨリ購入三年生	12,000	0	78,000	
			切取ヨリ購入三年生	60,200	0	0	
			苗木採取一人5,000本	12	0.300	36,000	
			苗木採取一人5,000本	12	0.300	36,000	
			苗木採取一人5,000本	20	0.600	12,000	
			苗木採取一人5,000本	5	0.100	0,500	
			苗木採取一人5,000本	20	0.050	1,000	
			苗木採取一人5,000本	100	0.300	30,000	
			苗木採取一人5,000本	150	0.300	45,000	
			苗木採取一人5,000本	150	0.300	45,000	
人工	20,000	苗木	切取ヨリ購入1,000本	60,000	0	160,500	
			切取ヨリ購入1,000本	25,000	4,000	100,000	
人工	20,000	苗木	切取ヨリ購入1,000本	120	0.300	37,500	
			切取ヨリ購入1,000本	120	0.300	37,500	
小計	20,000			25,000		137,500	
小計	34,000			97,000		375,000	

〔參照〕

農商務省令第十九號森林法施行細則(明治三十年十二月十四日抄録)
第一條 府縣知事ハ森林法第三條乃至第五條第七條第二十一條乃至第二十四條及第五十五條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ農商務大臣ニ具申シテ指揮ヲ請フヘシ
第六條 農商務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ヲ決定シタルトキハ其旨ヲ關係府縣知事ニ通告シ府縣知事ハ五日以内ニ府縣公報ヲ以テ其旨ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ掲示シ且ツ其旨ヲ森林所有者ニ通告スヘシ
第十一條 森林内ニ火入ヲ爲サントスル者ハ豫メ期日ヲ定メ森林官若クハ警察官ニ申出許可ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ火入ヲ許可シタルトキハ別記火入許可證ヲ交付スヘシ

○遞信省令第三號

漁夫搭載船定員ノ件左ノ通相定メ明治三十四年二月五日ヨリ施行ス

明治三十四年二月四日

遞信大臣原 敬

明治三十三年 月十二 遞信省令第八十七號船舶検査法施行細則ノ規定ニ依リ甲種船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有スル船舶ニシテ近海航路以下ノ航路制限内ニ於テ一定ノ期間特別ノ契約ヲ以テ多數ノ漁夫ヲ輸送セントスルモノハ明治三十五年三月三十一日迄ヲ限リ特ニ左ノ割合ニ依リ甲板上下及五呎以上ノ高ヲ有スル艙内ニ於テ旅客ノ衛生及ヒ起臥動作ニ適當ナル場所ニ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

一 航行時間二十四時間以上

一人ニ付(面積七平方呎)以上

二 航行時間二十四時間未満

二人ニ付(面積二十五平方呎)以上

前項ノ規定ニ依リ旅客ヲ搭載セントスル者ハ其ノ期間ヲ定メ管海官廳ニ申請シテ明治三十三年

月十二 遞信省令第八十七號船舶検査法施行細則第六十六條ニ定ムル臨時旅客定員證書ノ交付ヲ受クヘシ

○遞信省令第四號

宇品山海關間往復ノ通信船内ニ設置セル郵便取扱所ニ於テ清國沿岸碇泊中又ハ航行中振出又ハ拂渡ヲ爲スヘキ通常爲替及小爲替ノ料金ハ在清國各局所相互間又ハ同局所ト其ノ以外ノ各局所トノ間ニ取組ム通常爲替及小爲替ノ料金ト同一トス

明治三十四年二月七日

遞信大臣原 敬

○遞信省令第五號

宇品山海關間往復ノ通信船内ニ設置セル郵便取扱所ニ於テ取扱フ小包郵便物ニハ明治三十三年九月 遞信省令第五十六號清韓小包郵便規則ヲ適用シ碇泊中同取扱所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ハ其碇泊地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ト同一トシ又航海中引受クル小包郵便物ノ料金ハ其第一次ノ著港地ニ設置セル帝國郵便局所ニ於テ引受クル小包郵便物ノ料金ト同一トス

明治三十四年二月七日

遞信大臣原 敬

○遞信省令第六號

明治三十二年 月六 遞信省令第二十六號中長崎縣ノ内南高來郡口ノ津村長ヲ削除シ福岡縣ノ内ニ三潯郡大川町長ヲ追加ス
本令ハ本年三月一日ヨリ施行ス

明治三十四年二月二十二日

遞信大臣原 敬

〔参照〕

明治三十二年六月十日逓信省令第二十六號ハ船員法第七十九條ノ規定ニ依リ市町村長月長及之ニ準ズヘキ者ヲシテ管海官
廳ノ事務ヲ行ハシムル件ナリ

○内務省令第二號

明治三十二年内務省令第四十號健全證書交付手續第一條第二條第三條ヲ左ノ通り改正ス

明治三十四年三月十四日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

第一條 外國通ヒノ船舶橫濱港、神戸港、長崎港、門司港、下ノ關港又ハ口ノ津港ヨリ出港セントスル
トキハ健全證書ノ交付ヲ海港檢疫所又ハ支所ヘ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料トシテ
金五圓ヲ納ムヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ港ニ傳染病流行スト認ムルトキハ之ヲ其港ノ海港檢疫所長(下ノ關港
ハ門司海港檢疫所長)又ハ支所長ニ通報スヘシ流行ノ終熄シタリト認ムルトキ亦同シ

第三條 海港檢疫所又ハ支所ハ前條傳染病流行ノ通報ヲ受ケタルトキハ其終熄ノ通報ヲ受クル迄
ノ間第四條ノ健全證書ヲ交付スルコトヲ得ス

〔参照〕

内務省令第四十號健全證書交付手續(明治三十二年七月二十七日)抄録

第一條 外國通ヒノ船舶橫濱港、神戸港、長崎港、門司港又ハ下ノ關港ヨリ出港セントスルトキハ健全證書ノ交付ヲ海港檢疫
所ヘ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第二條 地方長官ハ前條ノ港ニ傳染病流行スト認ムルトキハ之ヲ其港ノ海港檢疫所長(下ノ關港ハ門司海港檢疫所長)ニ通
報スヘシ流行ノ終熄シタリト認ムルトキ亦同シ

第三條 海港檢疫所ハ前條傳染病流行ノ通報ヲ受ケタルトキハ其終熄ノ通報ヲ受クル迄ノ間第四條ノ健全證書ヲ交付スル
コトヲ得ス

○内務省令第三號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件攜帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十四年三月十五日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

明治三十四年三月 省令 大藏省第一號

土方工夫 土方工夫使用人 土方工事請負人ハ左ノ地域内ニ於テ明治三十八年十二月三十一日迄戎器 爆發物又ハ 戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帶スルハ此ノ限リニ在ラス

- 熊本縣八代郡 八代町 大田郷村 宮地村 植柳村 高田村 上松球麻村 下松球麻村
- 同 八千把村
- 同 華北郡 百濟來村 吉尾村 大野村
- 同 珠磨郡 八吉町 大村 藍田村 西瀬村 中原村 渡村 一勝地村 荒瀬村

○内務省令第四號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器共ノ他ノ物件携帶禁止ノ件左ノ通之ヲ定ム

明治三十四年三月二十五日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

栃木縣鹽谷郡喜連川町大字喜連川早乙女葛城同郡熟田村大字椋間田松山同郡氏家町大字氏家櫻野ニ於テハ明治三十四年三月二十五日ヨリ明治三十四年六月二十日迄戎器 爆發物又ハ 戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帶スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帶スルハ此ノ限リニ在ラス

○大藏省令第一號

葉煙草專賣法第六條二項ニ基キ明治三十四年ニ於ケル葉煙草耕作段別左ノ通之ヲ定ム

明治三十四年三月二十日

大藏大臣子爵渡邊國武

- 專賣局管内耕作段別 二百八十二町歩以内 岩井專賣支局同上 四百三十一町歩以内
- 吉井專賣支局同上 四百町歩以内 水戸專賣支局同上 六百四十九町歩以内

太田專賣支局同上	千二百五十八町歩以内	精來專賣支局同上	三百二十六町歩以内
茂木專賣支局同上	八百八十九町歩以内	大阪專賣支局同上	七百町歩以内
烏山專賣支局同上	七百九十八町歩以内	神戸專賣支局同上	百八十九町歩以内
太田原專賣支局同上	五百三十六町歩以内	久世專賣支局同上	五百九十七町歩以内
須賀川專賣支局同上	四百二十八町歩以内	高梁專賣支局同上	八百二十二町歩以内
三春專賣支局同上	千四百九十二町歩以内	府中專賣支局同上	千三百三十九町歩以内
大迫專賣支局同上	六百七十一町歩以内	三原專賣支局同上	四百七十三町歩以内
増田專賣支局同上	二百五十町歩以内	米子專賣支局同上	五百九十八町歩以内
東根專賣支局同上	五百五十八町歩以内	池田專賣支局同上	千五百二十三町歩以内
關原專賣支局同上	三百二十七町歩以内	琴平專賣支局同上	三百五十九町歩以内
小出專賣支局同上	五百八十九町歩以内	松山專賣支局同上	二百八町歩以内
松本專賣支局同上	三百九十二町歩以内	後免專賣支局同上	百十四町歩以内
飯野專賣支局同上	三百二十六町歩以内	志波專賣支局同上	六百十九町歩以内
横濱專賣支局同上	九十三町歩以内	長崎專賣支局同上	百二十三町歩以内
秦野專賣支局同上	千四百三十一町歩以内	熊本專賣支局同上	九百四十三町歩以内
見付專賣支局同上	六百四十町歩以内	白杵專賣支局同上	四百二十四町歩以内
名古屋專賣支局同上	九百五十四町歩以内	竹田專賣支局同上	四百二十五町歩以内
山田專賣支局同上	二百七十一町歩以内	出水專賣支局同上	八百九十町歩以内
八日市專賣支局同上	二百五十七町歩以内	鹿兒島專賣支局同上	千百一十町歩以内
勝山專賣支局同上	二百三十四町歩以内	指宿專賣支局同上	九百四十四町歩以内

明治三十四年三月 省令 大藏省第一號

○陸軍省令第二號

陸軍軍醫ノ職務上作為シテ死亡届出義務者ニ交付スヘキ死亡診斷書、死體檢案書ノ記載事項其ノ様式及交付手續左ノ通定ム

明治三十四年三月五日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

一 死亡診斷書、死體檢案書ノ記載事項及其ノ様式ハ明治二十三年內務省令第四十一號及同年內務省訓令第二十八號ノ規定ヲ準用スヘシ但シ職業ノ項ニハ死者ノ屬スル部隊名及兵種等級ヲ記載シ家計ノ主ナル職業ハ記載ヲ要セス

二 陸軍軍人恩給取扱手續第六書式ニ據ル

前號ノ死亡診斷書、死體檢案書ハ陸軍病院入院者ニ在リテハ陸軍病院長其ノ他ノ者ニ在リテハ死者ノ所屬部隊長若ハ附近兵站官衙ノ長ヨリ其ノ在籍地ノ市(區)町村長若ハ之ニ準スヘキ者ヲ經テ死亡届出義務者ニ送付スヘシ但シ動員シタル部隊ニ係ル者ハ其ノ在籍地所管ノ師團司令部若ハ留守師團司令部ニ在リテハ臺灣總督府ニ送付シ該司令部ニ於テ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

○陸軍省令第三號

陸軍召集規則中左ノ通改正ス

明治三十四年三月二十日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第九十條中「兵種人員」近衛師團シテ要ノ下ニ及出願期日ヲ加フ

第九十一條中「二月二十日」ヲ師團長ノ定ムル出願期日ニ三月一日迄ヲ十五日以内ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第三十四號陸軍召集規則(明治三十二年十一月十五日)沙條

第九十條 師團長ハ各聯隊區及各隊ヨリ召集スヘキ下士候補生ノ人員ヲ定メ各隊長及聯隊區司令官ニ送シ同時ニ陸軍部外ヨリ召集スヘキ者ノ兵種人員及師團長ヨリ師團内ニ廣告スヘシ但各兵科下士候補生中學生ノ人員ハ陸軍部外ヨリ採用スヘキ者決定シタル後之ヲ定ムルモノトス

第九十一條 陸軍部外ノ志願者ハ第八條ニ定ムル願書其ノ他ノ書類ヲ二月二十日迄ニ市町村長ニ差出し市町村長ハ之ヲ調査シ願書印シテ三月一日迄ニ聯隊區司令官ヨリ送付スヘシ但志願者ハ願書ニ臺灣ノ兵種ヲ記載シ又同師團内他ノ聯隊區ニ寄留スル者ニシテ寄留地聯隊區ニ於テ検査ヲ受ケントスルキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

○陸軍省令第四號

陸軍服役條例第六十五條ノ三及陸軍召集條例第八十三條ニ依リ臺灣寄留者演習召集規程左ノ通定ム

明治三十四年三月二十日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

臺灣寄留者演習召集規程

第一條 陸軍服役條例第六十五條ノ三ニ當ル豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士及歸休兵、豫備役後備役兵卒、第一補充兵ノ演習召集ハ臺灣守備混成旅團長之ヲ行フ

第二條 混成旅團長ハ召集スヘキ期日兵種階級人員及日數部隊ヲ定メテ少クモ召集期日前二十日ニ之ヲ各隊長ニ達シ且演習召集名簿第一及演習召集令狀第二ヲ作り令狀ハ辨務署長ニ送付スヘシ

地方ニ在テハニ名簿ハ召集期日前日迄ニ當該部隊長ニ送付スヘシ

混成旅團長ハ其所管内ニ演習召集ヲ爲スヘキ部隊無キ者アルトキハ演習ヲ爲サシメントスル部隊長ニ協議シテ召集日時等ヲ定メ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 混成旅團長ハ召集名簿調製後發送迄ノ間ニ異動ヲ生シタルトキハ該名簿事故ノ區畫ニ記

- 第十三條 召集部隊長ハ應召員到着セハ直ニ身體検査ヲ行ヒ召集名簿ニ應召不應召其ノ他ノ事故ヲ記シ第六條第十條ノ居書ヲ添ヘ演習終リシ後七日以内ニ混成旅團長ニ差出スヘシ
- 傷疾疾病ニ因リ演習ニ堪ヘサル者ハ軍隊手牒ニ其ノ旨ヲ記シ召集ヲ解除スヘシ但シ演習終リシ後七日以内ニ其ノ診斷證書 常備役後備補充兵役又ハヲ混成旅團長ニ差出スモノトス
- 第十四條 召集部隊長ハ應召員中傷疾疾病ニ罹リ第九條ノ期日内ニ到着シ能ハサル者ト認メタルトキハ之ニ歸郷ヲ命シ其ノ旨ヲ混成旅團長ニ報告スヘシ
- 第十五條 召集部隊長ハ召集中ノ者ニシテ父母ノ疾病危篤死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲休暇ヲ願出ル者ニ許可ヲ與フルニ方リ其ノ休暇中ニ召集解除ヲ爲スヘキ者ハ直ニ召集ヲ解除スヘシ
- 第十六條 召集部隊長ハ演習ヲ終リタルトキハ軍隊手牒ニ所要ノ記入ヲナシ在ルヤ否ヲ點檢シテ召集ヲ解除スヘシ
- 第十七條 演習中本籍地ニ於テ充員召集 補充召集ノ通報ヲ受ケタル者アルトキハ本人ヨリ部隊長ニ届出テ當該部隊長ハ直ニ其ノ召集ヲ解除スヘシ
- 第十八條 混成旅團長ハ第十三條第二項ニ當ル者及演習召集ノ結果ヲ其ノ本籍地聯隊區司令官ニ通達スヘシ
- 第十九條 辨務署長ハ令狀ヲ交付シタル者ノ人名其ノ召集部隊及日數第七條乃至第九條ニ依リ應召スルコト能ハサル者ノ人名及事由ヲ憲兵又ハ警察官吏ニ通報スヘシ
- 第二十條 辨務署長ハ令狀ノ受領證ヲ編綴シ召集期日後二十日間保管スヘシ
- 第二十一條 辨務署長ハ交付シ能ハサリシ令狀及應召ヒサル爲返付ヲ受ケタル令狀アルトキハ召集期日後三十日以内ニ混成旅團長ニ送付スヘシ

- 第二十二條 憲兵及警察官吏ハ召集ニ方リ違令ノ者無カラシムル爲相當ノ處置ヲ爲シ必要ニ應シ其ノ景況ヲ混成旅團長ニ報告スヘシ
- 第二十三條 召集ニ應スル爲旅行ヲ爲ス者ニハ其ノ出發前ニ於テ現任地ヨリ召集地迄ノ里程ニ應スル旅費ヲ出納官吏 現金 旅費 渡ヲ受クルヨリ支給ス 但シ一日行程以内ヲ旅行シタル後之ヲ給スルコトヲ得
- 第二十四條 召集解除ヲ命セラレタル者ハ寄留地歸著迄ノ旅費ハ召集部隊ヨリ支給スルモノトス但シ召集中住居ヲ轉シタル者ト雖應召前ノ現任地迄ノ里程ニ應シ旅費ヲ給ス
- 第二十五條 演習召集旅費ノ仕拂命令官ハ臺灣陸軍監督部長トス
- 第二十六條 演習召集旅費ノ出納官吏ハ諸部團隊ノ官吏及辨務署長トス但シ混成旅團長必要ニ應シ辨務支署長ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシメ又ハ警察官吏ニ出納官吏若ハ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得
- 前項出納官吏分任出納官吏ノ任命ハ辨務署長ヲ除クノ外ハ諸部團隊長又ハ地方長官ニ於テスヘシ
- 第二十七條 諸部團隊長、地方長官ハ演習召集旅費前渡ヲ受クヘキ官吏及公吏ノ官(職)氏名ヲ混成旅團長ニ通知スヘシ混成旅團長ハ之ヲ仕拂命令官ニ通知シ大藏省ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ
- 第二十八條 演習召集旅費ハ經常費ニ屬ス其ノ旅費額ハ陸軍旅費規則第二十七條ニ依リ諸部團隊ニ於テ計算シ普通ノ手續ヲ以テ仕拂命令官ニ請求スルモノトス
- 第二十九條 演習召集旅費支出ニ關シ前諸條ニ規定スルモノノ外ハ陸軍召集諸費支出規程第八條

召集旅費金何四拾錢
右何所ニ於テ支給ス此ノ令狀ヲ係員ニ示シテ受領スヘシ代人ヲシテ受領セシ
ムルトキ爲シ得レハ其ノ委任狀中ニ召集部隊及到着地ヲ記入スヘシ

裏
面

混成旅團司令部ニ於テハ應召員及應召員ニ代リ令狀ヲ受領スヘキ者ノ心得ト爲ルヘキ事項ヲ記入スル
コトヲ得

○陸軍省令第五號

明治三十一年陸軍省令第十六號中左ノ通改正シ本月二十七日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十二日

第一憲兵隊橫須賀憲兵分隊ノ區畫豐島村ヲ「鎌倉町」ニ 陸軍大臣男爵兒玉源太郎
「同縣同郡」ヲ「同縣鎌倉」ニ改ム
「豐島村」ヲ「郡鎌倉町」ニ改ム

○海軍省令第二號

望樓長望樓手試験規則左ノ通定ム

明治三十四年三月二日

海軍大臣山本權兵衛

望樓長望樓手試験規則

第一條 望樓長望樓手ヲランコトヲ志願スル者ハ願書第一號ニ履歷書第三號並戸籍謄本ヲ添ヘ

附近ノ鎮守府ニ差出スヘシ但シ望樓手ヨリ望樓長ニ任用セラレンコトヲ志願スル者ノ願書ニハ
履歷書及戸籍謄本ヲ添フルヲ要セス

前項ノ志願者ニシテ望樓長望樓手任用令第四條ニ該當スル者ノ願書ハ第二號書式ニ依ルヘシ但
シ同條第一號若ハ第二號ニ該當スル者ハ戸籍謄本ヲ添フルヲ要セス

第二條 試験ハ分テ體格検査及學術試験ノ二トス學術試験ハ體格検査ニ合格シタル者ニアラサレ
ハ行ハス但シ望樓手ニシテ望樓長ニ任用セラレンコトヲ志願スル者ニアリテハ學術試験ノミヲ
行ヒ又服役滿期ノ故ニアラスシテ免官免役トナリタル海軍准士官下士卒ニアリテハ體格検査ノ
ミヲ行フコトヲ得

前項ニ依リ體格検査ノミヲ受クヘキ海軍下士卒ハ三箇年以上現役ニ服シタル者ニ限ル

第三條 望樓長ノ學術試験科目ハ左ノ如シ

- 讀書漢字交
- 作文通俗
- 算術四則ヨリ
- 算術比例マナ
- 電信術
- 各國ノ國旗並軍艦旗ノ識別

望樓手學術試験科目ハ前項ヲ適用ス但シ其ノ問題ハ望樓長ノ試験問題ヨリ簡易ナルモノトス

第四條 試験委員長ハ海軍省ニ試験委員ハ海軍省及鎮守府ニ常置ス

第五條 試験ハ東京又ハ鎮守府所在ノ地ニ於テ之ヲ行フ但シ望樓手ニシテ望樓長ニ任用サレンコ
トヲ志願スル者ノ試験ハ之ヲ海軍望樓ニ於テ施行スルコトヲ得

第六條 鎮守府所在ノ地ニ於テ試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ其ノ受験者ノ氏名ヲ當該鎮守府
ニ於ケル試験委員ニ通報ス

第七條 鎮守府所在ノ地ニ於テ學術試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ密封ヲ以テ問題書ヲ鎮守府

ニ於ケル試驗委員ニ送附ス試驗委員ハ指定ノ時期ニ試驗ヲ施行シ其ノ應答書ハ密封ヲ以テ之ヲ
 試驗委員長ニ送附スヘシ
 第五條ニ依リ海軍望樓ニ於テ學術試驗ヲ施行スルニハ前項ニ準シ鎮守府ニ於ケル試驗委員ヨリ
 問題書ヲ望樓長ニ送附シ望樓長ヲシテ試験ニ臨場セシメ密封ヲ以テ其ノ應答書ヲ返附セシムル
 コトヲ得
 試驗委員長ハ鎮守府ニ於ケル試驗委員ヨリ送附シタル應答書ヲ審査シ成績順序ヲ定メ之ヲ海軍
 大臣ニ進達スヘシ
 第八條 鎮守府ニ於テ第一條ノ願書ヲ受領シタルトキハ司令長官ハ望樓監督官ヲシテ之ヲ調査セ
 シメ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
 第九條 望樓長望樓手試験ニ合格シタル者所要ノ歳ニ超ユルトキハ之ニ合格證書ヲ授與シ置キ缺
 員ヲ生シタルトキ之ヲ任用スルコトヲ得但シ合格證書ノ有効期限ハ證書授與ノ日ヨリ滿一箇年
 トス
 前項ノ合格者ニシテ其ノ任用ノ以前ニ於テ之ヲ辭セント欲スル者ハ速ニ狀ヲ具シ之ヲ最初出願
 シタル鎮守府ニ願出ツヘシ鎮守府司令長官共ノ願書ヲ海軍大臣ニ進達ス
 附則
 第十條 明治二十九年海軍省令第三號望樓長望樓手任用試驗規則ヲ廢止ス
 第一號書式(用紙美濃紙ニ折一通)
 望樓長(望樓手)試驗願

氏名
 何年何月何日生
 年號月何年何箇月

私備望樓長(望樓手)志願ニ付(何鎮守府所在ノ地(東京)ニ於テ試験相受度履歷得並戸籍附本相添此段奉願候也
 年月日
 海軍大臣宛
 第一號書式(用紙美濃紙ニ折一通)
 望樓手任用願

氏名
 何年何月何日生
 年號月何年何箇月

私備望樓手志願ニ付望樓長望樓手任用令第四條ニ依リ任用相成度履歷相添此段奉願候也
 年月日
 海軍大臣宛
 第二號書式(用紙美濃紙ニ折一通)
 履歷書

氏名
 何年何月何日生
 年號月何年何箇月

一本籍(何市何町何番地ヲ詳記スル事)
 一現住地(右ニ同シ)
 一修學
 一職業技藝等

何府縣華士族平民
 戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍
 氏名
 何年何月何日生
 年號月何年何箇月

一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事(其ノ詳細ハ海軍省令ニ於テ示ス)
一 賞罰
一 破産者ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケス(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケル者ハ破産者トシテ之ニ準ジテ處分スルコトナリ)

年月日

氏名印

○海軍省令第三號

宮原水管式汽罐製造請負ノ競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六十九條ニ定メタル資格ノ外尙ホ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

明治三十四年三月十三日

海軍大臣 山本權兵衛

一 船舶用水管式汽罐ノ製造ニ從事シ其ノ馬力五百以上ニ達シタル經驗若ハ軍艦用汽罐ノ製造ニ從事シ其ノ馬力一千以上ニ達シ且ツ船舶用水管式汽罐ヲ製造又ハ組立若ハ取扱タル經驗ヲ有スルコト

二 専門ノ技術者ヲシテ二年以上引繼キ製罐ノ業務ニ從事セシメ居ルコト

○司法省令第四號

横濱地方裁判所管内横濱區裁判所管轄横濱市神奈川町、青木町、淺間町、岡野町、久保町ヲ同區裁判所神奈川出張所ノ管轄ニ改メ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十六日

司法大臣 野村吉三郎

地方裁判所	區裁判所	出張所	國	管	市	區	町	村	
横濱	横濱	神奈川	武藏	横濱市ノ内	本郷町、相生町、石川町、柳町、伊勢木町、山吹町、眞金町、松影町、高島町、清水町、西平沼町	横濱市ノ内	元町、住吉町、山元町、福富町、蓮葉町、永井町、月岡町、宮崎町、内田町、日比谷町、根岸町	市	大網村、子安村、生見尾村、保土ヶ谷町、宮川村、矢崎村
横濱	横濱	武藏	横濱市ノ内	本郷町、相生町、石川町、柳町、伊勢木町、山吹町、眞金町、松影町、高島町、清水町、西平沼町	市	元町、住吉町、山元町、福富町、蓮葉町、永井町、月岡町、宮崎町、内田町、日比谷町、根岸町	町	青木町、淺間町、岡野町、久保町	
横濱	横濱	武藏	横濱市ノ内	本郷町、相生町、石川町、柳町、伊勢木町、山吹町、眞金町、松影町、高島町、清水町、西平沼町	市	元町、住吉町、山元町、福富町、蓮葉町、永井町、月岡町、宮崎町、内田町、日比谷町、根岸町	村	尾張屋町	

明治三十四年三月 省令 司法省第五號

三五

○司法省令第五號
横濱地方裁判所管内横濱區裁判所神奈川出張所管轄横濱市神奈川町、青木町、淺間町、岡野町、久保町ニ屬スル商業登記ノ事務ハ横濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
明治三十四年三月二十六日
司法大臣 野村吉三郎

○文部省令第三號

中學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十四年二月五日

中學校令施行規則

文部大臣松田正久

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年教授日數及式日
- 第三章 編制
- 第四章 設備
- 第五章 設置及廢止
- 第六章 入學、在學、退學及懲戒
- 第七章 補則
- 第八章 附則

中學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 中學校ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、唱歌、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

法制及經濟、唱歌ハ當分ノヲ缺クコトヲ得

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於

ケル男子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメテ期シ實業航行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ指示シ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシメ又倫理學ノ一斑ヲ授クヘシ

第三條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要、國文學史ノ一斑ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歷史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國、盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歷史ハ日本歷史及外國歷史トシ日本歷史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歷史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授ク

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
 數學ハ算術代數初步及平面幾何ヲ授クヘシ
 第八條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス
 博物ハ重要ナル植物動物礦物ニ關スル一般ノ智識竝ニ人體ノ構造生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ
 第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則竝ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス
 物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律器械ノ構造及作用元素及化合物ニ關スル智識ヲ授クヘシ
 第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス
 法制及經濟ハ現行法規ノ大要及理財財政ノ一斑ヲ授クヘシ
 第十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス
 圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシメ用器畫ニ於テハ幾何畫ヲ授クヘシ
 第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス
 唱歌ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌複音唱歌ヲ授クヘシ

以テ要旨トス

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
 體操ハ普通體操及兵式體操トシ普通體操ニ於テハ矯正術徒手體操啞鈴體操球竿體操及棍棒體操ヲ授ケ兵式體操ニ於テハ柔軟體操器械體操各個教練小隊教練及中隊教練ヲ授クヘシ
 第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
國語及漢文	七	七	七	六	六
外國語			七	七	六
歷史				七	六
地理			三	三	三
數學				三	三
博物		二	三	五	四
物理及化學					四
法制及經濟					三
圖畫					三

法制及經濟ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ外國語、歴史、地理ニ唱歌ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ圖書ニ配當スヘシ

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十七條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニテラズ

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十八條 傳染病豫防ノ爲ニ必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道廳府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ届出ヅヘシ

計	二八	二八	三〇	三〇
體操	三	三	三	三
唱歌	一	一	一	一

第十九條 紀元節、天皇節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百マテ之ヲ増スコトヲ得

分校ノ生徒數ハ三百人以下トス

補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セス

第二十一條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ五十八以下トス

第二十二條 修身、唱歌及體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十三條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置グコトヲ得ス

第二十四條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネヌ又ハ他

ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

第四章 設備

第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ寄宿舎ヲ備ヘサルコトヲ得

第二十六條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道徳上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第二十七條 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第二十八條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一 通常教室

二 博物、物理及化學、圖畫ノ各特別教室

三 講堂

四 圖書室、器械室、標本室

五 職員室、生徒控所、其ノ他必要ナル諸室

博物、物理及化學ノ特別教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

講堂、教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室、器械室、標本室、職員室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 教室ノ大ハ一學級ノ生徒ヲ容ルルニ足ルヲ度トシ生徒一人ニ付容積百二十立方尺ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

第三十條 寄宿舎ニハ自修室、寢室、合監室、食堂、應接所、浴室、鹽嗽所、病室等ヲ備フヘシ

自修室、寢室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第三十一條 自修室ノ大ハ生徒一人ニ付容積三百二十四立方尺、寢室ノ大ハ生徒一人ニ付容積四百八十六立方尺、自修室、寢室ヲ兼用スルトキハ生徒一人ニ付容積五百六十七立方尺ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

第三十二條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若ハ之ニ類スル形状ニシテ二千坪以上ノ面積ヲ備フヘシ但シ特別ノ事情アル

トキハ千坪マテニ減スルコトヲ得

屋内體操場ハ生徒控所ニ兼用シ又ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第三十三條 校具ハ圖書、器械器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 中學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書、配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表及徵兵猶豫ニ關スル書類
- 五 入學試驗及學年試驗ノ問題、答案及成績表
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、器械器具、標本、模型ノ目錄
- 七 往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學、退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ永久之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十五條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ヲ設ケ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ假校舍ヲ使用スルコトヲ得

一 新ニ中學校又ハ其ノ分校ヲ設置スルトキ

二 非常變災アリタルトキ
 前項第一號ノ場合ニ於テ假校舎ヲ使用セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第二號ノ場合ニ於テ假校舎ヲ使用シタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ
 前項ノ規定ニ依リ認可ヲ申請シ又ハ届出ツルトキハ其ノ事由及使用期間ヲ具シ且前條及次條第四項ノ圖面、分析表ヲ添附スヘシ

第五章 設置及廢止

第二十八條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期及第三學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

第四十二條 第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試験ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先テテ入學ヲ許スコトヲ得

高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ノ撤入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第四十三條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理ニ就キ同條第三項ノ試験ハ國語、算術ニ就キ高等小學校第二學年ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者一箇年以内ニ其ノ中學校ニ再入學ヲ志願シタルトキハ試験ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

試驗ハ分テ學期試驗及學年試驗トシ學期試驗ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年末ニ於テ之ヲ行フヘシ

試驗ハ國語及漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、體操ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補則

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一 休業日ニ關スル事項
 - 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
 - 三 試驗ニ關スル事項
 - 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
 - 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
 - 六 寄宿舎ニ關スル事項
- 第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ
- 第五十六條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附則

第五十七條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第五十八條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十九條 明治二十七年文部省令第七號及同第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學校ノ實科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ル

第六十條 明治三十二年文部省令第三號第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ中學校ノ編制及設備ニ關シ文部大臣ノ與ヘタル認可ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、同第十三號、明治三十二年文部省令第三號、同第四號、同第十四號、同第三十三號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治十九年三月三日 文部省令第十四號ハ中學校ノ學科及其程度同二十七年三月三日 文部省令第七號ハ同上ニ關スル改正ノ件同年六月十日 同第十三號ハ中學校實科規程同三十二年八月三日 文部省令第三號ハ中學校編制及設備規則九月四日 同第十四號ハ中學校ニ於テ一箇月以上臨時休業セントスルトキハ其理由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受ケンムル件同年九月三日 同第十四號ハ中學校及高等女學校設置廢止規則同年六月八日 同第三十三號ハ中學校生徒入退學及表簿ニ關スル規則ナリ

○文部省令第四號

高等女學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十四年三月二十二日

文部大臣松田正久

高等女學校令施行規則

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年、教授日數及式日
- 第三章 編制
- 第四章 設備
- 第五章 設置及廢止

- 第六章 入學、在學、退學及懲戒
- 第七章 補則
- 第八章 附則

高等女學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ外國語ヲ缺ク

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第一項ノ學科目ノ外隨意科目トシテ教育、手藝ノ一科目又ハ二科目ヲ加フルコトヲ得但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ指示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル義務ヲ知ラシムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラ

シメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歴ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要ヲ授クヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地文ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術ヲ授クヘシ又學校ノ修業年限ニ應ジテ代數ノ初歩及平面幾何ノ初歩ヲ授クルコトヲ得

第八條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要並ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第九條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ

前項ノ外幾何畫ノ初歩ヲ授クルコトヲ得

第十條 家事ハ家事整理上必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ

第十二條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ普通體操及遊戲トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、啞鈴體操ヲ授ケ又便宜球竿體操及豆壺體操ヲ授クヘシ

第十四條 教育ハ教育ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ家庭教育ニ資スルヲ以テ要旨トス

教育ハ教育ノ理論ノ大要ヲ授クヘシ

第十五條 手藝ハ女子ニ適切ナル手藝ヲ習ハシメ指手ノ動作ヲ巧緻ナラシメ兼テ勤勉ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手藝ハ編物、組絲、縫物、刺繡、造花等土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ授クヘシ
 第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	二	二
國語	六	六	六	五
外國語	三	三	三	三
歷史				
地理				
數學				
理科				
園藝	一	一	一	一
家事	四	四	四	四
裁縫	二	二	二	二
音樂	三	三	三	三
體育				
教育				
手藝	二	二	二	二
計	二六	二六	二六	二六

教育ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ第四學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シ
 テ之ニ充テ、手藝ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ二學年以上裁縫ノ每週教授時
 數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目
 ニ配當スヘシ
 修業年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史					
地理					
數學					
理科					
園藝	一	一	一	一	一
家事	四	四	四	四	四
裁縫	二	二	二	二	二
音樂	三	三	三	三	三
體育					
教育					
計	二六	二六	二六	二六	二六

教育ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ第五學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ、手藝ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ二學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ

修業年限ヲ短縮シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	二	二	二
國語	八	八	七
歷史		三	三
地理		三	三
數學		二	二
理科		三	二
圖畫	二	一	一
家事			三
裁縫			三
計	二八	二八	二八

土地ノ情況ニ依リ前三表中各學科目ノ每週教授時數ヲ増減スルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二箇年乃至四箇年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目ハ技藝ニ關スル學科目ノ外修身、國語、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂體操トス

數學、理科、圖畫ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

技藝ニ關スル學科目ノ種類及各學科目ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第二十一條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科、技藝專修科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十三條 高等女學校ノ學年、教授日數及式日ニ關シテハ中學校令施行規則第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ準用ス

第三章 編制

第二十四條 高等女學校ノ生徒數、學級ノ編制及教員ノ數ニ關シテハ中學校令施行規則第二十條第一項、第二十一條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス。
第二十五條 修身、音樂、體操及手藝ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得。
隨意科目ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シ五十八ヲ超エサル場合ニ限り同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設備

第二十六條 高等女學校ニ於テハ校地校舎、體操場及校具ヲ備フヘシ。
道廳府縣立高等女學校ニ於テハ前項ノ外寄宿舎ヲ備フヘシ但シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第二十七條 校地、校舎、教室、寄宿舎、校具及住宅ニ關シテハ中學校令施行規則第二十六條、第二十七條、第二十九條乃至第三十一條、第三十三條、第三十五條乃至第三十七條ノ規定ヲ準用ス

- 一 通常教室
 - 二 理科、圖畫、裁縫、音樂ノ各特別教室
 - 三 講堂
 - 四 圖書室、器械室、標本室
 - 五 職員室、生徒控所、其ノ他必要ナル諸室
- 講堂、教室ハ便宜兼用スルコトヲ得

圖書室、器械室、標本室、職員室ハ便宜兼用スルコトヲ得

第二十九條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋內體操場トス。
屋外體操場ハ方形若クハ之ニ類スル形状ニシテ相當ノ面積ヲ備フヘシ。
屋內體操場ハ生徒控所ニ兼用スルコトヲ得

第五章 設置及廢止

第三十條 高等女學校ノ設置及廢止ニ關シテハ中學校令施行規則第三十八條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ外設置ニ關スル申請ニハ修業年限ヲ具スヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第三十一條 高等女學校生徒ノ入學、在學、退學及懲戒ニ關シテハ中學校令施行規則第四十一條乃至第四十五條、第四十八條乃至第五十條、第五十一條乃至第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 他ノ高等女學校ヨリ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學科程度同一ナル學校ニ限り試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

中學校令施行規則第四十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平常ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ修身、歴史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試験ヲ行フコトヲ得

第三十四條 學校長ハ補習科ヲ修了シ又ハ專攻科、技藝專修科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ修業證書又ハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第七章 補則

第二十五條 中學校令施行規則第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ高等女學校ニ關シ之ヲ準用ス

第八章 附則

第三十六條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第三十七條 本令施行ノ際現ニ高等女學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科、學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第三十八條 明治三十二年文部省令第五號第十四條ノ規定ニ依リ高等女學校ノ生徒數ニ關シ文部大臣ニ於テ爲シタル指揮ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第三十九條 本令施行前ニ設置シタル高等女學校ニ於テ校舍及寄宿舎ノ設備ニ關シ本令ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ之ニ依ラサルコトヲ得

第四十條 明治三十二年文部省令第五號及同第七號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年九月文部省令第五號ハ高等女學校編制及設備規則(明治三十二年七月七號ハ高等女學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ナリ)

○文部省令第五號

明治三十二年文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規則中左ノ通改正シ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十六日

文部大臣松田正久

第一條第二項 特別ノ規定アル場合ヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ關シテハ中學校令施行規則第五十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條第一號中明治二十七年文部省令第七號「中學校令施行規則」ニ改ム

第四條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ又ハ中學校令施行規則ニ依リ文部大臣ニ届出ツヘキ事項ニ關シテハ各其ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 中學校令施行規則第三十四條、第四十八條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ認定ヲ受ケタル學校ニ關シ之ヲ準用ス

〔參照〕

文部省令第三十四號公立私立學校認定ニ關スル規則(明治三十二年六月二十八日抄録)

第一條第二項 特別ノ規定アルモノヲ除ク外學則ニ規定スヘキ事項ニ付テハ明治三十二年文部省令第十四號中學校及高等女學校設置止規則第二條ヲ準用ス

第二條 前條ノ申請ニ基キ文部大臣ニ於テ認定ヲ爲スヘキ學校ハ其管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具ヘ左號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 專門學校ニ在リテハ其入學者ハ中學校卒業生若ハ明治二十七年文部省令第七號第一條ノ各學科ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ入學試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニシテ修業年限三箇年以上ノモノ

第四條 認定ヲ受ケタル學校ニ於テ學則、生徒定員、校地、校舍及學校維持ノ方法ヲ變更セントスルトキハ公立學校ニ在リテハ其管理者私立學校ニ在リテハ其學校代表者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但特別ノ規定ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘキ事項ニ付テハ各其規定ニ依ルヘシ

學校代表者變更ノ場合ニ於テモ前項ノ規定ニ依ルヘシ

第五條 明治三十二年文部省令第三十三號中學校生徒入退學及表簿ニ關スル規則第七條乃至第十一條ハ認定ヲ受ケタル學校ニ之ヲ準用ス

○文部省令第六號

明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程中第七條第二項ヲ左ノ通改正ス

明治三十四年三月二十七日

文部大臣松田正久

明治三十四年三月 省令 文部省第六號

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ四月検査ニ係ルモノハ其ノ年六月限り十月
検査ニ係ルモノハ其ノ年十二月限り文部大臣ニ報告スヘシ

〔参照〕

文部省令第四號學生生徒身體検査規程(明治三十三年三月二十六日)抄録
第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部
大臣ニ其ノ他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ
地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直轄ニ文部大臣ニ報告スヘシ

○文部省令第七號

明治二十七年文部省令第十一號第十四條ヲ左ノ通改正シ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十四年三月三十日
第十四條 理科生徒ノ在學期限ハ二箇年以上三箇年以下トス
文部大臣松田正久

〔参照〕

文部省令第十一號高等師範學校規程(明治二十七年四月六日)抄録
第十四條 理科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

○農商務省令第三號

蠶種検査法第十八條ノ規定ニ依リ同法ヲ施行セサル地方左ノ通相定ム
明治三十四年三月八日
北海道廳ノ内 北見根室及ヒ千島 農商務大臣林 有造
東京府ノ内 伊豆七島及ヒ小笠原島
沖繩縣

○逓信省令第七號

明治三十年六月逓信省令第十八號外國新聞電報規則第二條ヲ左ノ通改正シ本月二日ヨリ施行ス
明治三十四年三月二日
逓信大臣原 敬

第二條 新聞電報ノ本邦首尾料ハ左ノ如シ

- 一 本邦ト韓國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金四錢
 - 二 本邦ト韓國以外ノ外國トノ間ニ送受スルモノハ一語ニ付金八錢
- 新聞電報ヲ送受シ得ヘキ外國ノ地名及其料金ハ別ニ之ヲ告示ス

〔参照〕

逓信省令第十八號外國新聞電報規則(明治三十年六月二十六日)抄録
第二條 新聞電報ヲ送受スヘキ地及料金ハ左表ニ依ル

○逓信省令第八號

當分ノ内電話加入者ハ其ノ使用ニ供スル普通電話機ニ限り所屬電話交換局ノ認可ヲ經テ自ラ之ヲ
供給スルコトヲ得但シ其ノ電話機ノ裝置及維持ニ關シテハ總テ電話交換規則ノ規定ヲ準用ス
明治三十四年三月五日
逓信大臣原 敬

○逓信省令第九號

明治三十三年九月逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則中左ノ通改正及追加ス
明治三十四年三月十四日
逓信大臣原 敬

第一條中郵便切手ノ下ニ郵便切手貯金票紙ノ八字ヲ加フ
第三條第一項ニ左ノ但シ書ヲ加フ

但シ時間ヲ定メス受付ヲ爲スヘキ郵便又ハ電報ヲ差出ストキハ本項ノ時限ニ拘ラス之ニ要スル郵便切手類ヲ賣下クヘシ

第十七條第一項但シ書ヲ左ノ通改ム

但シ所轄一二等郵便電信局長郵便局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ郵便切手類買受組合内ノ郵便受取所取扱人中ヨリ選舉セシムルコトヲ得

第四十條 此ノ規則中郵便受取所ニ關スル規定ハ總テ郵便電信受取所電信受取所及電話所ニ適用ス

郵便及電信受取所ニ吏員ヲ派出シ其ノ事務ヲ取扱ハシムルトキハ郵便受取所ニ於ケル郵便切手類ノ交換買戻及買受ニ關スル規定ヲ適用セス

(第二號様式)

- 郵便切手類買受請求書
- 一 郵便切手何枚 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 一 郵便切手貯金蓋紙 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 小計額面價格金何程 何枚
 - 此買受代金何程 何枚
 - 但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五
 - 一 郵便通常葉書何枚 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 一 郵便往復葉書何枚 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 小計額面價格金何程 何枚

- 此買受代金何程
- 但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五
 - 一 長形郵便封皮何枚 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 一角形郵便封皮何枚 何枚
 - 此類面價格金何程 何枚
 - 小計額面價格金何程 何枚
 - 此買受代金何程 何枚
 - 但割引歩合千分ノ五十又ハ三十五
 - 合計額面價格金何程 何枚
 - 此買受代金何程 何枚
 - 右請求候也

年月日

何郵便電信局又ハ郵便局 御中

現住所 何郵便及電信局長又ハ何郵便及電信受取所 取扱人若ハ郵便切手賣下人 氏 名印

(備考)

一 郵便切手類ノ買受請求ヲ爲スニハ其ノ買受代金ノ割引計算上單位未滿ノ端數ヲ生セサルコトヲ要ス若買受請求ノ都合ニ依リ單位以上ノ計數ヲ選ミ難キ事故アルトキハ各小計ノ買受代金ニ於テ單位未滿ノ端數ヲ四捨五入スヘシ

一 郵便切手類ノ買受請求ハ各種類毎ニ請求書ヲ差出スコトヲ得

(参照)

逓信省令第七十五號郵便切手類賣下規則(明治三十三年九月二十九日)抄録

第一條 此ノ規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府ニ於テ發行スル郵便切手郵便封皮郵便葉書ヲ謂フ

第六條 郵便切手類ノ賣下時限ハ郵便及電信局所ニ於テハ郵便又ハ電報受附時限ニ依リ電話局所ニ於テハ電話所ノ電話通

借時間ニ依ル

第十七條 郵便切手類買受組合總代人ハ郵便受取所取扱入及郵便切手賣下入申ヨリ互選シ毎組合ニ一人ヲ置クヘシ但シ東京郵便電信局郵便區内ノ郵便切手類買受組合總代人ハ郵便受取所取扱入申ヨリ選舉スヘシ
第四十條 郵便及電信局所内又ハ電話交換局内ニ設置ノ電話所ヲ除クノ外電話所ニ於ケル郵便切手類ノ賣下ニ關シテハ總テ郵便受取所ニ於ケル郵便切手類ノ賣下ニ關スル規定ヲ準用ス

○逓信省令第十號

明治三十三年九月 逓信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣下規則第七條ヲ左ノ通改正ス

明治三十四年三月十四日

逓信大臣原 敬

第七條 郵便電信受取所ニ對シテハ總テ郵便受取所ニ關スル規定ヲ適用ス

此ノ規則ニ規定シタルモノノ外郵便切手類賣下規則第三條乃至第八條第十條乃至第十二條第十
六條乃至第三十二條第三十五條第三十九條及第四十條第二項ハ收入印紙賣下クヘキ郵便局所
及其ノ賣下ノ許可ヲ得タル郵便切手賣下所ニ準用ス

〔參照〕

逓信省令第七十二號郵便局所收入印紙賣下規則(明治三十三年九月二十九日)抄録
第七條 此ノ規則ニ規定シタルモノノ外收入印紙ノ賣下ニ關シテハ郵便切手類賣下規則第三條乃至第八條第十條乃至第十
二條第十六條乃至第三十二條第三十五條及第三十九條ヲ準用ス

○逓信省令第十一號

明治三十一年十一月 逓信省令第四十八號中在韓國本邦郵便局ニ於テ賣下クル「朝鮮」ノ文字ヲ印刷シ
タル符號入郵便切手ハ來四月一日ヨリ廢止ス
但シ本文廢止切手ハ韓國ヨリ發スル郵便物ニ限り當分使用スルコトヲ得

明治三十四年三月十五日

逓信大臣原 敬

○逓信省令第十二號

證券郵便貯金規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十二日

逓信大臣原 敬

證券郵便貯金規則

第一條 郵便貯金預ケ人ハ支拂期ノ開始セル無記名證券又ハ其利札ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲ス
コトヲ得

所得稅ヲ要スル證券ノ利子ニ關シテハ其所得稅ニ相當スル金額ヲ引去リタル殘額ヲ以テ貯金預
入額トス

第二條 前條郵便貯金ニ預入ヲ爲シ得ヘキ證券又ハ利札ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 證券又ハ利札ヲ以テ郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ證
券種別明細書用紙ヲ申受ケ之ニ證券又ハ利札ノ種類、記號、番號及金額等ヲ記載シ證券又ハ利札
ト共ニ之ヲ貯金通帳ニ添付差出スヘシ

第四條 郵便貯金ニ受入レタル證券又ハ利札ニハ郵便局所ニ於テ其裏面ニ日附印ヲ捺捺スヘシ

第五條 證券又ハ利札ヲ以テ預入ヲ爲シタル郵便貯金ハ郵便局所ニ於テ其證券又ハ利札ニ對スル
現金ノ支拂ヲ受ケタル後之ヲ貯金原簿ニ登記ス

郵便貯金ニ受入レタル證券又ハ利札ニシテ現金ノ支拂ヲ受クルコト能ハサルトキハ之ニ對スル
貯金ノ預入ヲ取消シ證券又ハ利札ハ之ヲ預ケ人ニ還付スヘシ

第六條 證券又ハ利札ヲ以テ預入ヲ爲シタル郵便貯金ハ貯金原簿ニ登記シタル後ニ非ラサレハ之
カ拂戻ヲ爲サス

○逓信省令第十三號

郵便爲替證書線引讓渡規則左ノ通相定メ來四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年三月二十二日

逓信大臣原 敬

郵便爲替證書線引讓渡規則

- 第一條 郵便爲替證書ハ其裏面ニ二條ノ平行線ヲ畫シ銀行ニ對シ任意ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ特ニ銀行ヲ指定セントスルトキハ其線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ
 - 讓受銀行ハ前項郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定ナキモノハ引渡ニ依リ又其指定アルモノハ其指定ヲ抹消シ前項ノ規定ニ依リ他ノ銀行ニ之ヲ讓渡スルコトヲ得但シ銀行ノ指定ナキモノヲ特ニ銀行ヲ指定シテ讓渡セントスルトキハ證書裏面ノ平行線内ニ銀行ノ名稱ヲ記載スヘシ
 - 第二條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニシテ銀行ノ指定アルモノハ其指定銀行ノ又指定ナキモノハ一般銀行ノ請求ニ應シ之カ拂渡ヲ爲スヘシ
 - 第三條 線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ郵便爲替規則第二十條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ
 - 第四條 郵便局所ハ交換所組合銀行ノ請求アルトキハ交換所所在地ニ限り特ニ定ムル交換方法ニ依リ線引ヲ爲シタル郵便爲替證書ニ對シ之カ拂渡ヲ爲スコトアルヘシ
- 逓信省令第十四號
鐵道作業局用車輛製作請負競争入札ニ加ハラントスルモノハ會計規則第六十九條第一項ニ定メタル資格ノ外尙本令ニ定ムル資格ヲ備フルコトヲ要ス
- 明治三十四年三月二十六日
- 逓信大臣原 敬

- 第一條 工事ノ經歷ニ關シテハ入札ノ月ヨリ起算シ既往三箇年ノ内或一年間ニ於テ鐵道用客貨車百輛以上ノ製作請負契約ヲ完全ニ履行シタルコトヲ要ス
 - 第二條 製作場ニ關シテハ左ノ區別ニ從ヒ工場設備ヲ有スルコトヲ要ス
 - 一 車輛三十輛以下請負ノ場合ニハ一構内ニ於テ一時ニ其ノ種ノ車輛十輛以上ヲ製作スルニ適當ナル工場設備
 - 二 同五十輛以下請負ノ場合ニハ同十五輛以上ヲ製作スルニ適當ナル工場設備
 - 三 同百輛以下請負ノ場合ニハ同三十輛以上ヲ製作スルニ適當ナル工場設備
 - 四 同百輛以上請負ノ場合ニハ同五十輛以上ヲ製作スルニ適當ナル工場設備
 - 第三條 工事擔當者ニ關シテハ帝國大學機械工學科卒業生若クハ之ト同等ト認ムヘキ學識ヲ有スルモノニシテ二箇年以上車輛製作ニ從事シタル技術者一人以上ヲ入札ノ當時迄引續キ一箇年以上其ノ工場ニ從事セシムルモノタルコトヲ要ス
 - 第四條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス
- 逓信省令第十五號
在清國北京、天津及芝罘郵便局竝ニ其出張所ニ於テ振出ヲ取扱フ郵便爲替ノ最高制限ハ當分ノ内一人一日金百圓トス
- 明治三十四年三月二十六日
- 逓信大臣原 敬

○逓信省令第十六號
明治三十年 月 逓信省令第三十二號加入登記料及電話使用料ノ項中金澤ノ次ニ左ノ通追加ス
明治三十四年三月二十六日

逓信大臣原 敬

新	海	金	五	圓	金	四	十八	圓
---	---	---	---	---	---	---	----	---

○遞信省令第十七號

明治三十二年^三月 遞信省令第十六號ヲ以テ發行シタル五厘郵便切手ノ下部ニ(BRN)トアルヲ(BRN)ト改ム

但シ當分ノ内從來ノ分ヲ取交使用ス

明治三十四年三月二十七日

遞信大臣原 敬

○遞信省令第十八號

明治三十四年^三月 遞信省令第十一號但書左ノ通改正ス

明治三十四年三月二十九日

遞信大臣原 敬

但シ本文廢止切手ニシテ四月一日以前ニ賣下タルモノハ當分ノ内取交セ使用スルコトヲ得

○外務省令第一號

明治二十九年外務省令第三號移民保護法施行細則中左ノ通改正ス

明治三十四年四月十日

外務大臣加藤高明

第一條 漁業ノ下割註ヲ左ノ通改ム

「露領沿海州及薩哈噠島沿岸並日韓兩國通漁規則ニ依リ韓國沿岸ニ於テ行フ漁業ヲ除ク」

第二條 第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ移民ニシテ移民取扱人ニ依ル者ハ渡航願書ニ移民取扱人ヲシテ連署セシメ移民取扱人ニ依ラスシテ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ハ保證人ヲシテ之ニ連署セシムヘシ但シ移民保護法第十三條第一項ニ該當スル移民ハ同時ニ移民取扱人ト締結シタル契約書ノ提示ヲ要ス

第十一條 移民保護法第十三條ニ掲グル書面契約ニ對シ認可ヲ受ケント欲スルトキハ其ノ契約書全文ニ移民ヲ渡航セシムヘキ土地ノ情況ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ又同法第十四條ニ規定セル手数料ノ認可ヲ受ケント欲スルトキハ移民ノ渡航地及手数料金額ヲ記載シ移民原籍地ノ地方長官

(東京府ハ)ニ差出スヘシ

前項契約書ニハ左ノ事項ヲ缺クコトヲ得ス

一 契約期限

二 手数料

三 渡航及歸航費用ノ支辨方

四 渡航地ニ於ケル周旋ノ方法

五 疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ救助又ハ歸國ノ手續

北海道地方費令第十條ニ依ル豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル件左ノ通定ム
北海道地方費ノ豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關シテハ明治二十四年八月内務省令第十二號
及明治三十三年三月内務省令第七號ヲ準用ス但シ其ノ規定中府縣參事會ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ
行ヒ府縣出納吏トアルハ北海道地方費ノ出納事務ヲ掌ル官吏ニ該當ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス但シ本令ノ規定ヲ適用シ難キモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ當分其ノ施
行ヲ延期スルコトヲ得

明治三十四年四月一日
内務大臣文學博士男爵末松謙澄

○内務省令第七號
明治三十年七月内務省令第十八號中左ノ通改正ス

第一項但書ヲ左ノ如ク改ム
明治三十四年四月九日

但支出ニ伴フ收入又ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ
歩合ヲ定ムルコトヲ得

第四項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

五 市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シテ補助スル
コトヲ得

〔參照〕

内務省令第十八號(明治三十年七月十五日)抄録
府縣知事ハ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ府縣稅又ハ地方稅ヨリ市町村ニ對スル補助ニ關シ左ノ各項ニ依リ規程ヲ定メ内

務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出總額ニ對シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ各市町村ニ補助スル歩合ハ精算
額ノ六分ノ一以上二分ノ一以下トス但支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其ノ收入ヲ控除シタル額ニ對シ本項ノ
補助歩合ヲ定ムルコトヲ得

○内務省令第八號

明治三十四年勅令第六十四號ニ據リ月手當給與細則左ノ通り相定ム
明治三十四年四月二十二日
内務大臣文學博士男爵末松謙澄

島嶼在勤者月手當給與細則

第一條 本年勅令第六十四號ニ依リ島嶼ニ在勤スル地方官廳ノ判任官及巡查雇員ニ支給スル月手
當ハ別表ニ依ル

第二條 新ニ赴任ノ者ハ任所へ到達ノ翌日ヨリ支給ス

第三條 病氣若ハ私事故障ノ爲任地ヲ離レタル者ニ對シテハ本令ノ月手當ハ日割ヲ以テ之ヲ支給
ス

第四條 本令ニ定ムルモノノ外月手當支給ニ關シテハ各俸給支給ノ例ニ依ル

第五條 明治三十四年四月一日以前ヨリ在勤スル者ニ對シテハ四月分月手當全額ヲ支給ス
(別表)

判任官	六圓
巡查員	五圓
雇員	四圓

明治三十四年四月 省令 内務省第八號 島嶼在勤者月手當給與細則

○內務省令第九號

明治三十二年內務省令第一號第一條中「巡查」ノ下ニ「森林監守、事業手」ヲ加フ
明治三十四年四月二十三日 內務大臣文學博士男爵末松謙澄

〔參照〕

內務省令第一號(明治三十二年一月九日)抄錄
第一條 千島國諸島ニ在勤スル北海道廳ノ支廳長、國技手、醫部、巡查及戶長、筆生、雇員ノ手當ハ任地到達ノ翌日ヨリ其ノ事務ニ從事スル間之ヲ給ス

○大藏省令第一號

明治三十年大藏省令第十號國稅徵收法施行細則中第八條ヲ削ル
本令ハ明治三十四年五月一日ヨリ施行ス
明治三十四年四月十八日 大藏大臣子爵渡邊國武

〔參照〕

大藏省令第十號國稅徵收法施行細則(明治三十年六月二十六日)抄錄
第八條 納税人ハ便宜ノ金庫ニ就キ稅務署長ノ指定シタル納付場所ニ税金及滯納處分費ノ爲答納ヲ請求スルコトヲ得

○大藏省令第三號

明治三十四年法律第二十七號ニ依リ地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ被害ノ種類及時日ヲ記載シ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ
明治三十四年四月十八日 大藏大臣子爵渡邊國武

○大藏省令第四號

葉煙草專賣法施行細則左ノ通相定ム

明治三十四年四月二十二日

大藏大臣子爵渡邊國武

葉煙草專賣法施行細則

第一條 葉煙草ヲ耕作セムトスル者ハ專賣局長又ハ專賣支局長ノ定ムル期限内ニ第一號書式ノ申請書ヲ專賣局又ハ專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項耕作ノ許可ヲ得タル者ニハ第二號書式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條 專賣局長又ハ專賣支局長ハ左ノ順序ニ依リ葉煙草ノ耕作ヲ許可スヘシ

一 前年ニ於テ葉煙草ノ耕作、乾燥、調理、包裝、品質等他ノ模範トナルヘキモノト認ムル者

二 前年迄葉煙草ノ耕作ヲ繼續シタル者

三 本年新規耕作ヲ申請セル者

第三條 專賣局長又ハ專賣支局長ハ耕作許可申請ニ係ル耕作段別カ申請者ノ資力及其ノ耕作上ノ設備ニ比シテ適當ト認ムルトキハ其ノ段別ヲ減少シテ許可スルコトアルヘシ

第四條 專賣局長又ハ專賣支局長ハ左ノ各號ニ該當スルモノニハ葉煙草耕作ヲ許可セザルコトアルヘシ

一 葉煙草ニ關スル法律命令ニ違反シタルモノ

二 葉煙草耕作ノ成績不良ナリシモノ

三 葉煙草ノ耕作ニ不適當ト認ムルモノ

四 葉煙草ノ耕作取締上不便ト認ムルモノ

五 耕作段別五畝步未滿ノモノ

第五條 葉煙草耕作者苗床ノ位置、坪數、耕作スヘキ土地段別、煙草ノ種類、本數、乾燥場及貯藏場ヲ

變更増減シ又ハ耕作ヲ廢止セムトキハ第一號書式ニ準シ專賣局又ハ專賣支局ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第六條 葉煙草耕作者其ノ耕作段別ノ減少又ハ耕作廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ其ノ現存スル葉煙草ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ葉煙草專賣法第二十二條ノ五ニ依リ耕作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

第七條 葉煙草耕作者其許可證ヲ亡失シタルトキハ直ニ事由ヲ具シ之カ再渡ヲ專賣局又ハ專賣支局ニ申請スヘシ

第八條 左ニ掲グル事項ハ專賣局長又ハ專賣支局長ノ指示スル所ニ從フヘシ

- 一 苗床ノ設備及其ノ管理
- 二 播種期
- 三 移植期
- 四 一坪當植付株數並畦間及株間ノ距離
- 五 腋芽ノ摘掻
- 六 心止期
- 七 其ノ他ノ耕作方法
- 八 葉分ノ撰別
- 九 乾燥方法
- 十 聯繩ノ長サ
- 十一 一繩ノ吊垂葉數

十二 一坪ノ吊垂幹數

十三 葉製ノ方法

十四 一把ノ葉數

十五 一包ノ量目又ハ把數

十六 結束材料

十七 包裝ノ方法

第九條 煙草ノ移植ヲ了シタルトキハ存セル煙草苗ハ直ニ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備田トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第十條 葉煙草耕作者ハ其ノ耕作地一箇所毎ニ字、地番及耕作者ノ氏名ヲ記シタル目標ヲ設クヘシ

第十一條 葉煙草專賣法第六條ノ三ニ依リ葉煙草ノ量目又ハ葉數ヲ査定セムトスルトキハ專賣局長又ハ專賣支局長ハ其ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ公示スヘシ

第十二條 葉煙草耕作者當該官吏ノ査定シタル量目又ハ葉數ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サムトスルトキハ即時其ノ不服ノ要領ヲ當該官吏ニ申出ヘシ

第十三條 葉煙草專賣法第六條ノ四第二項ノ鑑定人ハ專賣局長又ハ專賣支局長ニ於テ少クトモ其ノ半數ヲ專賣局員以外ヨリ選定スルモノトス

第十四條 專賣局長又ハ專賣支局長葉煙草專賣法第六條ノ四第二項ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

第十五條 葉煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作葉煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ直ニ其

ノ事由ヲ具シ專賣局又ハ專賣支局ニ届出ヘシ
 第十六條 葉煙草耕作種子採取ノ爲メ母木ヲ保存セムトスルトキハ其ノ種類、本數ヲ定メ豫メ當該官吏ニ申出テ承認ヲ受クヘシ
 第十七條 葉煙草耕作葉煙草ノ收穫ヲ終リタルトキハ直ニ其ノ幹根ヲ拔除スヘシ
 第十八條 枯葉、不熟葉、蝕損葉、立枯等アルトキハ當該官吏ニ申出テ其ノ指揮ヲ受ケ相當ノ處置ヲ爲スヘシ
 第十九條 葉煙草ハ其ノ種類、乾燥法、葉分、品質、葉竝ニ依リ區分調理スヘシ
 第二十條 前條ノ葉分ハ總テ左ノ區分ニ據ルヘシ
 一 上葉
 二 中葉
 三 木葉
 四 天葉
 前項ノ葉分ニ據リ難キモノハ雜葉トスヘシ
 第二十一條 乾燥調理ノ際生シタル葉屑等ニシテ納付ニ堪ヘサルモノハ當該官吏ノ承認ヲ經テ之ヲ處分スヘシ
 第二十二條 葉煙草納付ノ場所及期日ハ專賣局長又ハ專賣支局長之ヲ定メ豫メ公示スヘシ
 第二十三條 葉煙草耕作納付ノ爲メ葉煙草ヲ運送スルトキハ耕作許可證ヲ携帶スヘシ
 前項ノ許可證ハ納付ノ際之ヲ專賣局又ハ專賣支局ニ提出シ葉煙草納付量目賠償金等ノ記入ヲ受クヘシ

第二十四條 葉煙草耕作ノ納付セムトスル葉煙草ニシテ乾燥、調理、包裝ノ不完全ナルモノハ耕作者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ
 第二十五條 葉煙草耕作以外ノ者葉煙草ヲ運送スルトキハ外部賭易キ箇所ニ葉煙草ト記シタル布片ヲ付著スヘシ
 第二十六條 他人ノ葉煙草ヲ貯藏セムトスル者ハ葉煙草所有者ト連署シ其ノ都度種類、包數、量目及貯藏場ヲ專賣局又ハ專賣支局ニ届出ヘシ其ノ貯藏場ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
 第二十七條 煙草製造ヲ業トセムトスル者ハ其ノ製造場毎ニ第三號書式ノ申請書ニ製造場、貯藏場、販賣場ノ圖面及製造器械ノ種類、箇數ノ調書ヲ添ヘ專賣局又ハ專賣支局ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
 葉煙草賣買ヲ業トセムトスル者ハ其ノ店舗毎ニ第三號書式ニ準シタル申請書ニ營業場貯藏場ノ圖面ヲ添ヘ專賣局又ハ專賣支局ニ差出シ免許ヲ受クヘシ
 前二項ノ場合ニ於テ前年ニ引繼キ免許ヲ申請セムトスル者ハ異動アルトキノ場合ノ外附屬書類ノ添付ヲ要セス
 專賣局又ハ專賣支局ニ於テ第一項又ハ第二項ノ申請ヲ許可シタルトキハ第四號書式ノ免許證ヲ交付スヘシ
 第二十八條 煙草製造業者又ハ葉煙草賣買業者其ノ製造場又ハ營業場ヲ移轉セムトスルトキハ第三號書式ニ準シタル申請書ニ免許證ヲ添ヘ專賣局又ハ專賣支局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ
 第二十九條 煙草製造業者又ハ葉煙草賣買業者其ノ業ヲ廢止シ又ハ其ノ製造場、營業場ヲ滅セムトスルトキハ免許證ヲ添ヘ專賣局又ハ專賣支局ニ届出ヘシ

第三十條 煙草製造業者又ハ葉煙草賣買業者ノ帳簿ニハ少クモ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 煙草製造業者
 一 葉煙草受拂ニ關シテハ
 受拂ノ月日、包裝番號、種類、葉分、量目及買入代金、買入先
 一 煙草製造ニ關シテハ
 製造ノ月日、卷葉量目、製造箇數(本數別又ハ總數別)、總本數又ハ總量目
 一 製造煙草賣渡ニ關シテハ
 賣渡ノ月日、箇數(本數別又ハ總數別)、代金、賣渡先
 葉煙草賣買業者
 一 葉煙草買入ニ關シテハ
 買入ノ月日、包裝番號、種類、葉分量目、代金、買入先
 一 葉煙草改裝ニ關シテハ
 改裝ノ月日、元包裝番號、元量目、改裝番號、改裝量目
 一 葉煙草賣渡ニ關シテハ
 賣渡ノ月日、包裝番號、量目、代金、賣渡先
 第三十一條 葉煙草ノ賣渡ヲ受ケタル者ハ直ニ代金ヲ納付シ又ハ延納ヲ許可セラレタル場合ニ於テハ擔保物ヲ提供シ現品ヲ引取ルヘシ若賣渡契約ノ日ヨリ三日以内ニ現品ヲ引取ラサルトキハ相當ノ保管料ヲ徴收ス但シ契約ヲ解除シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第三十二條 葉煙草耕作者輸出ニ供スル葉煙草ヲ他ニ賣渡サルトキハ其ノ種類、葉分、包裝

量目ヲ記載シタル申請書ヲ專賣局又ハ專賣支局ニ差出シ認許ヲ受クヘシ
 第三十三條 專賣局長又ハ專賣支局長ニ於テ輸出葉煙草ヲ保管シタルトキハ第五號書式ノ保管證ヲ交付スヘシ
 第三十四條 專賣局又ハ專賣支局ニ保管シタル輸出葉煙草ニ調理ヲ加ヘムトスルトキハ保管證ヲ提出シ其ノ旨專賣局又ハ專賣支局ニ申出テ承認ヲ受クヘシ
 前項葉煙草ノ調理ニ依リ其ノ包裝、量目ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ保管證ヲ交付スヘシ
 第三十五條 前條調理ノ爲メ生シタル摺屑、葉滓等ハ當該官吏ノ指揮ニ依リ相當處分ヲ爲スヘシ
 第三十六條 保管葉煙草ノ讓渡ヲ爲ストキハ其ノ保管證ニ裏書ヲ爲スヘシ
 前項ノ保管葉煙草ヲ讓受ケタル者ハ其ノ旨專賣局又ハ專賣支局ニ申出ヘシ
 第三十七條 保管證ノ分割又ハ書換ヲ要スルトキハ專賣局又ハ專賣支局ニ申出ヘシ
 第三十八條 保管證ヲ亡失シタル者專賣局又ハ專賣支局ニ於テ相當ト認ムル資産ヲ有スル二名以上ノ保證人ヲ定メ損害ノ保證ヲ爲ストキハ保管葉煙草ノ交付ヲ受クルコトヲ得
 第三十九條 保管葉煙草ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出港ヲ指定シテ專賣局又ハ專賣支局ニ申出テ回送ノ請求ヲ爲スヘシ
 前項ノ葉煙草輸出港ニ到達シタルトキハ葉煙草專賣法第十七條ノ費用ヲ納付シテ保管證ヲ差出シ葉煙草ノ交付ヲ受クヘシ
 附則
 第四十條 本省令ハ明治三十四年四月二十九日ヨリ之ヲ施行ス
 第四十一條 明治三十年三月三十大藏省令第六號葉煙草專賣法施行細則ハ本省令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 (第一號書式)

葉煙草耕作申請書

左記ノ通り煙草耕作許可相成度此段申請候也

市町村大字	字	地番	種	類	本	數	段	別
合	計	何	筆					

- 一 乾燥區分
- 一 苗床所在地
- 一 苗床坪數
- 一 貯藏場
- 一 乾燥場

年月日

專賣(支)局長宛

何府(縣)市(町)村(大字)字地番 氏名(印)

備考 實播ノトキハ苗床ノ所在地及坪數ノ欄ヲ除キ單ニ實播ト記載スルモノトス
二番葉ノ收穫ヲ爲サントスル者ハ段別欄ノ下ニ「事故」ノ一欄ヲ設ケ箇所毎ニ其旨ヲ記載スルモノトス

(第一號書式)

葉煙草耕作許可證

(第何號)

(第二面)

何府(市)何町(村)大字字地番 氏名

耕作許可	種類	本數	段別	量目(葉數)	事由
何町	何番	何	何	何	何
計					

乾燥區分 何千(何、何葉ハ何千)
苗床所在地 何(市)町(村)大字字地番
苗床坪數 何坪
貯藏場 何宅(郡)市(町)村(大字)字地番(何種)物置
乾燥場 何宅(郡)市(町)村(大字)字地番(何種)物置
備考 二番葉ノ收穫ヲ許可シタルトキハ段別ノ下事故ノ一欄ヲ増設シ其ノ旨ヲ記載シ又査定
量目ノ下ニ番葉同上ノ一欄ヲ増設スヘシ

納付葉煙草領收

(第五號書式)

葉煙草保管證

印刷	第何號	保管人	住所	氏名
	一葉煙草	何種	何包	此量目何貫何匁
	一葉煙草	何種	何包	此量目何貫何匁
	一葉煙草	何種	何包	此量目何貫何匁
	計	何種	何包	此量目何貫何匁

右ハ明治二十九年法律第三十五號葉煙草專賣法第十三條ニ依リ保管ノ證トシテ之ヲ交付ス
明治何年何月何日
專賣(支)局長官 氏 名印

備考
一營業ヲ免許シタルトキハ裏面ノ各欄ニ免許ノ年月日ヲ記入シ營業者簽帳ト契印スルモノトス

○大藏省令第五號

金庫検査規程本年七月一日ヨリ左ノ通り改正ス

明治三十四年四月二十六日

大藏大臣子爵渡邊國武

金庫検査規程

- 第一條 金庫ノ検査ハ定時及臨時ニ之ヲ施行ス
- 第二條 定時検査ハ毎年三月三十一日(當日ノ出納ヲ終了セ)臨時検査ハ金庫出納役及其代理人交替スルトキ若クハ大藏大臣必要ト認ムルトキニ於テ之ヲ施行ス
- 第三條 検査官吏中央金庫若クハ本金庫へ臨檢ノ節ハ出納役若クハ其代理人ヨリ現金出納原簿ノ

計算表、現金出納計算書、有價證券受拂計算書及現金有價證券ノ現在高書ヲ徴シ之ヲ原簿其他諸帳簿等ノ員額ニ對查シ又現在高書ト其金櫃ニ保管スル所ノ現金及有價證券ト對查スヘシ

支金庫へ臨檢ノ節ハ出納役代理人ヨリ各帳簿ノ現金出納仕譯書有價證券受拂計算書及現金有價證券ノ現在高書ヲ徴シ之ヲ各帳簿ニ對查シ現在高書ト金櫃ニ保管スル所ノ現金及有價證券ト對查スヘシ

定時検査ノ場合ニ於テハ現金出納計算書及有價證券受拂計算書ヲ徴スルニ及ハス

検査官吏前各項ノ對查ヲ了シタルトキハ檢定書二通ヲ作り金庫出納役若クハ其代理人ヲシテ之ニ署名捺印セシメ其一通(即甲)ハ金庫出納役若クハ其代理人へ交付スヘシ

第四條 金庫出納役若クハ其代理人交替ノ場合ニ於ケル検査執行ノ際ニハ後任者タル金庫出納役若クハ其代理人之ニ立會フヘシ

前項ノ場合ニハ後任者ハ檢定書ニ連署シ検査終了ノ後直ニ前任者ヨリ現金有價證券等ノ引繼ヲ受ケ其旨前任者ト連署シ検査官吏ニ届出ヘシ

第五條 検査官吏ハ金庫ノ検査ヲ了シタルトキハ検査報告書ヲ作り之ニ金庫出納役若クハ其代理人ヨリ提出シタル所ノ書類及檢定書(即乙)ヲ添付シ定時検査ニ係ルモノハ其年四月三日迄ニ臨時検査ニ係ルモノハ直ニ其地ヲ發シ大藏大臣ニ送付スヘシ

第六條 金庫規則第十條ニ依リ金庫事務ヲ取扱フ所ノ銀行全部ノ金櫃帳簿ヲ検査スル場合ニハ検査官吏ハ其銀行ヨリ貸借對照表及現金有價證券ノ現在高書ヲ徴シ之ヲ諸帳簿及現在品ニ對查スヘシ

前項ノ場合ニハ検査官吏ハ其關係書類ヲ添付シ金庫検査報告ト併セテ大藏大臣ニ報告スヘシ

第七條 検査官吏金庫へ臨檢ノトキハ臨檢章ヲ攜帶シ之ヲ金庫出納役若クハ其代理人ニ示スヘシ

第八條 検査執行ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

備考 同送中ニ係ル員額ノ内譯ハ裏面ニ掲載スルモノトス

乙	號	某金庫檢定書	明治何年何月何日現金出納原簿 現金及同送科目ヲ合計シタル高 明治何年何月何日金庫現在金高
一金何圓			
一金何圓			
丙			
金貨	何圓		
補助銀貨	何圓		
兌換銀行券	何圓		
銅貨	何圓(白銅貨共)		
送金手形	何圓		
右ノ外現金ノ種類アルトキハ一々之ヲ掲クヘシ			
一金何圓		明治何年何月何日同送中	
一券面額	何圓	何枚	明治何年何月何日有價証券現在高
丙			
保證諸公債證書	何圓	何枚	
保證諸株券	何圓	何枚	

甲	號	某金庫檢定書	明治何年何月何日現金出納原簿 現金及同送科目ヲ合計シタル高 明治何年何月何日金庫現在金高
一金何圓			
一金何圓			
丙			
金貨	何圓		
補助銀貨	何圓		
兌換銀行券	何圓		
銅貨	何圓(白銅貨共)		

保證諸證券	何圓	何枚	
各自預金購入保管公債證書	何圓	何枚	
明治何年何月何日検査候處裏面之通相違無之候也			
明治何年何月何日			
金庫検査官吏			
某金庫出納役又ハ代理人 官 氏 名 國			
某金庫後任金庫出納役又ハ代理人 某 剛			
何 某 剛			

送金手形	何圓	
右ノ外現金ノ種類アルトキハ一々之ヲ掲クヘシ		
一金何圓		明治何年何月何日回送中
一券面額	何圓 何枚	明治何年何月何日有價證券現在高
内 際		
借付諸公債證書	何圓 何枚	
借付諸株式	何圓 何枚	
借付諸證券	何圓 何枚	
各自預金購入保管公債證書	何圓 何枚	
明治何年何月何日検査候處書面之通相違無之候也		
金庫検査官吏		
明治何年何月何日		
某金庫出納役又ハ代理人	官 氏 名 印	
何	某 印	
某金庫後任金庫出納役又ハ代理人	某 印	
何	某 印	

乙 號 裏 面	
一金何圓	明治何年何月何日回送中
内	
金何圓	明治何年何月何日何地金庫へ發送
但證據書何々ヲ檢ス	
金何圓	明治何年何月何日何地金庫へ發送
但證據書何々ヲ檢ス	
甲 號 裏 面	
一金何圓	明治何年何月何日回送中
内	
金何圓	明治何年何月何日何地金庫へ發送
但證據書何々ヲ檢ス	

明治三十四年四月 省令 海軍省第四號

第四憲兵隊由良憲兵分隊ノ區畫憲兵屯所及同位置へ左ノ如ク加フ

福長町	同縣三原郡福長町
加太町	同縣山縣郡加太町

第五憲兵隊吳憲兵分隊ノ區畫憲兵屯所及同位置へ左ノ如ク加フ

吉浦村 同縣同郡吉浦村

第六憲兵隊對馬憲兵分隊ノ區畫憲兵屯所及位置へ左ノ如ク加フ

鷓知村 同縣同郡鷓知村

第十憲兵隊福知山憲兵警察區中(鷓知ノ岡村)及舞鶴憲兵警察區中(北桑田郡(鷓知ノ岡村)ヲ削ル第十一憲兵隊九龜憲兵分隊ノ區畫憲兵屯所及同位置へ左ノ如ク加フ

多度津町 同縣多度郡多度津町

○海軍省令第四號
軍港要港規則別圖中左ノ通改ム

明治三十四年四月一日

海軍大臣山本權兵衛



明治三十四年四月 省令 海軍省第四號

醫學部ヲ長崎醫學專門學校トス

第三高等學校法學部及同工學部ヲ廢止ス

此ノ省令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

明治三十四年四月一日

○文部省令第九號

文部省外國留學生規程細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十四年四月八日

文部省外國留學生規程細則

文部大臣松田正久

第一條 文部省外國留學生ヲ命セントスルトキハ學力、品行及身體ニ就キ檢定ヲ行フ其ノ方法及學科目等ハ檢定ノ都度之ヲ定ム

文部省外國留學生規程第一條第一項ニ依リ文部省外國留學生ヲ命スル場合ニ於テハ學力ノ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二條 文部省外國留學生ヲ命セラレタル者ハ七日以内ニ誓書ヲ差出スヘシ

第三條 文部省外國留學生ニシテ本邦出發前疾病ニ罹リタル者ニ就テハ更ニ身體檢査ヲ行ヒ留學生ヲ免スルコトアルヘシ

第四條 文部省外國留學生本邦ヲ出發スルトキ及留學國ニ到着シタルトキハ七日以内ニ出發届到著届及旅行日記ヲ差出スヘシ

第五條 文部省外國留學生留學國ニ於テ學業ニ就キタルトキハ三日以内ニ就學届ヲ差出スヘシ

第六條 文部省外國留學生學術研究ノ爲特ニ旅行スルノ必要アルトキハ其ノ旅程及旅費見込書ヲ添付シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケ旅行シタルトキハ三十日以内ニ其ノ研究事項ニ關スル詳細ナル報告書及旅行日記ヲ差出スヘシ

第七條 文部省外國留學生ニ指定留學國ヨリ他ノ指定留學國ニ轉學セントスルトキハ三箇月前ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八條 文部省外國留學生ハ文部大臣ノ許可ヲ受クルニアラサレハ指定留學國以外ニ轉學スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ指定留學國內ニ於テ就學地ヲ轉セントスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 文部省外國留學生轉學シタルトキハ七日以内ニ轉學届及旅行日記ヲ差出スヘシ

第十條 文部省外國留學生ハ自己ノ便宜ニ依リ留學中半途歸朝スルコトヲ得ズ但シ疾病ニ因リ留學ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ特ニ急症ニシテ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ當該國駐在帝國公使ノ認可ヲ受クヘシ若シ公使館ニ遠隔セル地方ニ在リテ公使ノ認可ヲ受クルノ暇ナキトキハ最寄地方駐在領事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 文部省外國留學生ハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ研究事項ニ關スル申報書ヲ差出スヘシ

第十二條 文部省外國留學生留學國ニ到着シタルトキ及就學地ヲ離ル、トキハ遲滞ナク當該國駐在帝國公使、最寄地方駐在領事及文部省外國留學生監督ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十三條 文部大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ在外國文部省官吏又ハ文部省外國留學生中ニ就キ文部省外國留學生監督ヲ命ス

添付シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケ旅行シタルトキハ三十日以内ニ其ノ研究事項ニ關スル詳細ナル報告書及旅行日記ヲ差出スヘシ

第七條 文部省外國留學生ニ指定留學國ヨリ他ノ指定留學國ニ轉學セントスルトキハ三箇月前ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八條 文部省外國留學生ハ文部大臣ノ許可ヲ受クルニアラサレハ指定留學國以外ニ轉學スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ指定留學國內ニ於テ就學地ヲ轉セントスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九條 文部省外國留學生轉學シタルトキハ七日以内ニ轉學届及旅行日記ヲ差出スヘシ

第十條 文部省外國留學生ハ自己ノ便宜ニ依リ留學中半途歸朝スルコトヲ得ズ但シ疾病ニ因リ留學ニ堪ヘ難キトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ許可ヲ受クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ特ニ急症ニシテ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ當該國駐在帝國公使ノ認可ヲ受クヘシ若シ公使館ニ遠隔セル地方ニ在リテ公使ノ認可ヲ受クルノ暇ナキトキハ最寄地方駐在領事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 文部省外國留學生ハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ研究事項ニ關スル申報書ヲ差出スヘシ

第十二條 文部省外國留學生留學國ニ到着シタルトキ及就學地ヲ離ル、トキハ遲滞ナク當該國駐在帝國公使、最寄地方駐在領事及文部省外國留學生監督ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十三條 文部大臣ハ必要ト認メタル場合ニ於テ在外國文部省官吏又ハ文部省外國留學生中ニ就キ文部省外國留學生監督ヲ命ス

第十四條 文部省外國留學生監督ハ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ文部省外國留學生ヲ監督ス

第十五條 文部省外國留學生監督ハ文部省外國留學生ノ勸怠品行等ニ關シ意見アルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

第十六條 第十三條ニ依リ文部省外國留學生監督ヲ置キタル場合ニ於テハ第五條乃至第十一條及第二十三條乃至第二十七條ニ依リ文部省外國留學生ヨリ文部大臣ニ提出スル文書ハ文部省外國留學生監督ヲ經由スヘシ

第十七條 文部省外國留學生監督ハ前項ノ文書ヲ精査シ意見ヲ附シテ之ヲ進達スヘシ

第十八條 文部省外國留學生ニシテ品行不良ナルトキ又ハ成業ノ目途ナキトキハ留學生ヲ免スルコトアルヘシ

第十九條 文部省外國留學生ニハ左ノ區別ニ依リ學費及支度料ヲ支給ス但シ數箇國へ留學生者ノ支度料ハ其ノ多キ一方ノ額ヲ支給ス

國名	一箇年學費	支度料
歐米各國	千八百圓	二百圓
清國	千二百圓	百五十圓
韓國	千二百圓	百五十圓

前表記載以外ノ國ニ留學生者ノ學費及支度料ハ其ノ都度文部大臣之ヲ定ム

第十九條 文部省外國留學生ノ學費ハ留學國到着ノ翌日ヨリ歸朝出發ノ前日マテ之ヲ支給ス

第二十條 文部省外國留學生ノ學費ハ毎年度四期ニ區分シ前金渡ヲ以テ之ヲ送付ス

第二十一條 文部省外國留學生ハ旅行ノ途次各地ニ於テ研究事項アル場合又ハ臨時變災ノ場合ヲ除クノ外左表豫定日數ノ範圍内ニ於テ旅行スヘシ

但シ左表ニ記載ナキ地ニ旅行スルトキハ陸地ハ一日二百英里以上海路ハ一日百海里以上トス

前項臨時變災ノ場合ニ於テ前表豫定日數ノ範圍ヲ超エタルトキハ旅行日記ニ其ノ事由ヲ具シ又前表ニ記載ナキ地ニ旅行シタルトキハ其ノ英里數、海里數ニ關スル證明書ヲ差出スヘシ

第二十二條 文部省外國留學生ノ轉學旅費ハ第九條ノ旅行日記ニ依リ精算ノ上之ヲ送付ス但シ特別ノ事由アルトキハ概算渡ヲ以テ之ヲ送付スルコトアルヘシ

第二十三條 文部省外國留學生外國旅費規則表面外ノ地ヲ旅行シタル場合ニ於テ汽船、汽車賃若ハ舟、車、馬賃ノ寶費又ハ官費支給スルコトヲ得ヘキ私屬荷物ノ運賃ヲ支拂ヒタルトキハ旅行日記ト同時ニ寶費拂ノ證明書ヲ差出スヘシ

第二十四條 文部省外國留學生旅行ノ際私事ノ爲メ迂路ヲ經過セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ許可ヲ受クヘシ豫メ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ當該國駐在帝國公使、最寄地方駐在領事又ハ文部省外國留學生監督ノ證明ヲ得テ文部大臣ノ追認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ迂路ヲ經過シ順路ノ船泊料、汽車料ヲ支給スヘキ場合ニ於テ其ノ順路ニ外國旅費規則表面外ノ地アルトキハ其ノ證明書ヲ差出スヘシ

第二十五條 前二條ノ證明書ニハ成ルヘク其ノ算出ノ基ク所ノ證書類ヲ添付スヘシ

第二十六條 文部省外國留學生旅行中私事ノ爲メ滞在セントスルトキハ其ノ許可ヲ受クヘシ若シ豫メ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ追認ヲ受クヘシ但シ私事滞在中ハ一切旅費ヲ支給セス

第二十七條 文部省外國留學生旅行中病氣ノ爲メ滞在スルコト三日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書若ハ當該國駐在帝國公使、最寄地方駐在領事又ハ文部省外國留學生監督ノ證明ヲ得テ其ノ旨ヲ

届出ツヘシ

- 第二十八條 文部省外國留學生ハ留學滿期ノ翌日就學地ヲ出發歸朝スヘシ但シ止ムコトヲ得サル事由ニ依リ出發シ難キトキハ當該國駐在帝國公使、最寄地方駐在領事又ハ文部省外國留學生監督ノ證明ヲ得テ十四日以内滞在スルコトヲ得
- 第二十九條 文部省外國留學生學費又ハ旅費ヲ受領シタルトキハ遲滞ナク領收證書ヲ中央金庫ニ送付シ且其ノ旨ヲ文部大臣ニ報告スヘシ
- 第三十條 文部省外國留學生歸朝シタルトキハ留學中學校等ニ於テ受領セシ學業證書類ヲ添ヘ留學始末書及旅行日記ヲ差出スヘシ但シ學業證書類ハ文部大臣檢閱ノ上之ヲ返付スヘシ
- 第三十一條 本令ノ規定ニ依リ差出スヘキ申報書、旅行日記及留學始末書ハ左ノ書式ニ依ルヘシ

從明治何年何月 申報書	
修業所教師 學科目等	何年何月何日某地某學校若ハ某所ニ入り何月何日何日迄教師某々氏ニ就キ某々學科目ヲ研修シ何月何日ヨリ現今ニ至ル迄教師某々氏ニ就キ某々學科目ヲ修メス 何年何月何日ヨリ何月迄何々ノ研究又ハ實驗ニ從事ス其ノ成績何々又ハ其ノ報告書(研究又ハ實驗ノ結果)別紙ノ如シニハ添付セラルベシ又ハ其ノ成績書(研究又ハ實驗ノ結果)別紙ノ如シニハ添付セラルベシ又ハ其ノ成績書(研究又ハ實驗ノ結果)別紙ノ如シニハ添付セラルベシ
入學金授受	(地名)學校名教師氏名學科目等ハ國字洋字并書ヲ要ス以下之ニ準ス 何年何月何日某地某學校若ハ某所ニ入學金等トシテ何貨何程ヲ納ム 何月ヨリ何月迄何月間授業料合計何貨何程ヲ納ム

旅行休業	何年何月何日何々實驗ノ爲某地方巡回ノ命アリシニ依リ又ハ何月何日旅テ出願セシ某地方巡回ノ豫許可アリシニ依リ何月何日某地出立某地方ニ旅行シ何月何日迄了ル其ノ報告書(研究又ハ實驗ノ結果)別紙ノ如シニハ添付セラルベシ又ハ其ノ報告書(研究又ハ實驗ノ結果)別紙ノ如シニハ添付セラルベシ
試驗學位受	何月何日ヨリ何日迄某學科ノ試驗ヲ受ケ其ノ成績何々 何月何日某學校ニ於テ某學位若ハ某學科卒業證書ヲ受領ス 何月何日何々ニ依リ貸狀或ハ賞品何々又ハ何貨何程ヲ受領ス
前項ノ外 緊要ノ事項	宿所某國某地某町何番地離方(國字洋字并書) 文部省外國留學生 官名學位稱號 何某印
旅行日記 何年何月何日東京ヲ發シ汽車ニテ橫濱ニ到リ同日同處ニ宿泊ス又ハ某國某地ヲ發シ何月何日某港ニ到リ同日某店何々ニ宿泊ス(或ハ二日三日宿泊ス) 一何月何日橫濱又ハ某國某港解纜(汽船何々)某洋ヲ經テ何月何日某國某港ニ到リ同日某店何々ニ宿泊ス 一何月何日ヨリ何月何日迄病氣(又ハ何々)ノ爲某所ニ滞在(旅店何々) 一何月何日某國某港ヲ發シ汽車ニテ同日某國某府ニ到リ又ハ某國某港解纜(汽船何々)何月何日某國某港ニ到リ同日某店何々ニ宿泊ス 一何月何日某府ヲ發シ汽車ニテ同日某地某所又ハ轉學地某府ニ到リ同日某店何々ニ宿泊ス又ハ某港解纜(汽船何々)何月何日橫濱ニ到リ同日東京ニ歸ル 右ハ某國留學被命渡航ニ係ル又ハ某國留學ノ處歸朝ニ係ル又ハ轉學等ニ係ル旅行日記前書	

ノ通ニ有之候也

明治何年何月何日

文部大臣爵何某殿

文部省外國留學生

官名學位稱號 何某印

留學始末書

一往返發著

明治何年何月何日東京出發其港解航英洋ヲ經(何月何日ヨリ何月何日迄某地ニ留留)何月何日某國某所(就學地)ニ到著

何月何日滿期(病氣或ハ何ノ事故ニ付歸朝)命セラレ或ハ何ノ事故アリテ歸朝願濟(ニ依リ)何月何日某所出發英洋ヲ經(何月何日ヨリ何月何日迄某地留留)何月何日某港ニ著(本邦港)何月何日東京歸著

一修學發況

何年何月何日某國某所某修業所ニ入り教師某氏ニ從ヒ何年何月何日マテ左ノ學科ヲ研修ス

學科何々(國字洋字并書)

何年何月何日ヨリ何ノ故ヲ以テ某校所ニ轉シ教師某氏ニ從ヒ何年何月何日マテ左ノ學科(事項)ヲ研修ス

學科何々(或ハ何々事項)(國字洋字并書)

何年何月何日ヨリ何月何日マテ某所ニ於テ又ハ某地ニ遊同左ノ事項ヲ研究者ハ實踐ス其ノ成績何々又ハ其ノ報告書別紙ノ如シ(記シ候處ニハ附シテ其ノ詳ヲ記ス)

何々事項(國字洋字并書)

一學位卒業證書及褒賞

何年何月何日試験ノ高點ヲ得賞品何(送)ヲ受ケ

何年何月何日何々卒業證書ヲ受ケ

何年何月何日何々學位ヲ受ケ

一右ノ外緊要ノ事項

右ノ通候也

明治何年何月何日

文部大臣爵何某殿

族籍(在官者ハ之ヲ要セス)

官名學位稱號 何某印

附則

第三十二條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第三十三條 本令施行ノ際韓國ニ留學スル者ニハ一箇年學資金千二百圓ヲ支給ス

第三十四條 本令施行ノ際旅行中ノ者ニハ其ノ旅行ヲ終ルマテ第二十一條ヲ適用セス

○文部省令第十號

教育基金令ニ依リ配當スヘキ明治三十四年度ニ於ケル配當金ノ標準ハ明治三十二年十二月三十一日現在ノ學齡兒童數ニ依ル

明治三十四年四月十七日

文部大臣松田正久

○文部省令第十一號

師範學校及小學校ヲ除ク外學校ノ名稱ニハ費用負擔ノ區別ニ從ヒ道廳府縣立郡立市町村立又ハ私立等ノ文字ヲ冠スヘシ

既設學校ノ名稱ハ前項ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ改稱シ當省ヘ開申スヘシ

明治三十四年四月二十日

文部大臣松田正久

○農商務省令第四號

明治三十二年農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年四月十九日

農商務大臣林 有造

第一條中但書ヲ削リ同條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

第二十九條第二項但書中「急迫ノ事情アルトキ」ノ下ニ「又ハ明治二十三年勅令第九十三號及明治

三十二年勅令第三百六十三號第十三號ニ依ル特賣ノ場合ニ於テ」ノ四十七字ヲ加フ

第三十三條 特賣ノ許可アリタルトキハ當該官廳ハ契約保證金ヲ徵收スヘシ但シ特賣物件ノ代金

百圓ニ滿テサルトキ又ハ賣拂豫約ニ基ク特賣ノ場合ニハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

第二十四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

特賣ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ買受人ト共ニ第三號

書式ニ依リ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

第二十四條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十四條ノ二 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ納メサ

ルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當タ

ル金額ヲ徵收スヘシ但シ賣拂豫約ニ基ク特賣及不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ三 特賣ノ許可ヲ受ケタル者カ第三十四條ノ期間内ニ請書ヲ差出ササルカ又ハ契約

保證金ヲ納メタルモ契約ヲ結ハサルトキハ特賣ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ契約

保證金ハ之ヲ還付セズ

前項ノ場合ニ於テ契約保證金ナキトキハ違約金トシテ出願代金百分ノ十二當タル金額ヲ徵收ス

ヘシ但シ賣拂豫約ニ基ク特賣及不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條第一項中但シノ下ニ「賣拂豫約ニ基ク特賣及」ノ十字ヲ加フ

第四十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四十二條ノ二 賣拂豫約ニ基ク特賣契約ノ期間内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ期滿了ノ日ヨ

リ違約金トシテ一日ニ付賣拂代金百分ノ一二當タル金額ヲ徵收スヘシ

第三號書式中

何々(物件ノ名稱ヲ)何程(面積又)ノ下ニ「但 何程ニ付(競争契約ノ場)何々何程ノ下ニ「但同上」ヲ

加フ

今般ノ下ニ「何々ノ爲(特賣ニ限リ其事)ヲ加ヘ「全書ノ通」ヲ「前書ノ通」ニ改ム

契約事項ノ冒頭ニ左ノ一項ヲ加フ

一 契約保證金何程

第八號書式中

何々(物件ノ名稱ヲ)何程(面積又)ノ下ニ「但 何程ニ付」ヲ加フ

今般ノ下ニ「何々ノ爲」ヲ加フ

契約事項ノ冒頭ニ左ノ文字ヲ加フ

一 契約保證金何程

〔参照〕

農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則(明治三十二年八月三日)抄錄

第一條 國有林野及產物賣拂ノ競争契約(公賣)及隨意契約(特賣)ハ本則ニ依リ之ヲ行フ但シ國有林野ノ豫約賣拂ハ別ニ定

ムル所ニ依ル

第二十九條第二項

轉任轉勤又ハ歸朝ヲ命セラレタルモノ出發期日前ニ其ノ命令ヲ取消サレタルトキハ半額ヲ給シ
 出發期日前ニ退官休職ヲ命セラレタルトキハ全額ヲ給ス但シ自己ノ便宜又ハ刑法ノ宣告、懲戒
 ノ處分ニ由リ免官ノモノニハ之ヲ給セス

第六條 本任地ト兼任地トヲ異ニスル場合ニ於テハ其ノ本任地ヲ以テ前各條ノ任地及在勤スヘキ
 地ト看做ス但シ他ノ官廳ヨリ兼任ノ者ニ給スル在勤手當ハ其ノ兼任地相當ノ給與額ニ依ル

第七條 兼任ノ者ニ給スル在勤手當及加給手當ハ重複ニ給セス其ノ給與額ノ高額ナル方ニ依リ之
 ヲ給ス

第八條 他ノ官廳ヨリ兼任ノ者ニ給スル在勤手當ハ總テ第一號表ニ定ムル給與額ノ十分ノ三トス

第九條 病氣又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサル場合ニ於ケル在勤手當及加給手當ノ給與方ハ高等
 官官等俸給令第十八條ノ例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ許可ヲ得テ歸朝スル者ニ對スル給與方ハ第一條第五項及第三條第七項ノ例ニ
 依ル

第十條 在勤手當及加給手當ハ年額ヲ十二分シ其ノ月割額ヲ以テ毎月文官俸給支給日ニ之ヲ給
 ス但シ月割額全額ヲ給與スヘカラサルモノニ對シテハ日割ヲ以テ計算ス

新任轉任轉勤歸朝退官休職又ハ死亡等ノ場合ニ於テハ前項支給期日ニ拘ラス之ヲ給ス
 一時手當ハ其ノ給與スヘキ事實ノ生シタルトキ之ヲ給ス

第十一條 在勤手當及加給手當ニ異動ヲ生スルトキハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外命令
 到達ノ日ノ翌日ヨリ計算ス

第十二條 在勤手當及加給手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依リ厘位未滿ハ切捨トス

附則

第十三條 本令ノ規定ハ明治三十四年四月分ヨリ之ヲ適用シ其以前ニ係ルモノハ從前ノ定額ニ依
 リ之ヲ給ス

第一號表

在勤手當給與年額表

任 所	局長		技 書	手 記	寄 記 補
	奏任官	判任官			
北 京	1,150	960	600	390	390
上 海	1,150	960	600	390	390
天 津	1,150	960	600	390	390
芝 罘	1,100	840	550	360	360
蘇 州	1,050	780	500	330	330
杭 州	1,000	720	450	300	300
沙 市	1,000	720	450	300	300
厦 門	1,100	840	550	360	360
漢 口	1,100	840	550	360	360
福 州	1,100	840	550	360	360
京 城	1,100	840	550	360	360

第一號表

釜山	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇
元山	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇
仁川	一三三〇	九〇〇	五〇〇	三三〇
木浦	九六〇	七〇〇	四一〇	三〇〇
鎮南浦	一〇八〇	七〇〇	四八〇	三三〇
馬山	九六〇	七〇〇	四一〇	三〇〇
群山	九六〇	七〇〇	四一〇	三〇〇
城津	一〇八〇	七八〇	四八〇	三三〇

一時手當給與額表

區別	委任	局長書記技手	書記	補
清韓兩國間轉任轉勤ノモノ	一五〇	九〇	六〇	五〇
清國內各地間轉任轉勤ノモノ	二〇〇	七〇	六〇	四〇
韓國內各地間轉任轉勤ノモノ	一〇〇	六〇	六〇	四〇
歸朝ノモノ	八〇	五〇	五〇	三〇

○逓信省令第二十號
 千島國後島 同國擇捉島 大隅國大島 琉球國八重山島ニ設置スルニ等郵便及電信局職員在勤月手

當給與細則左ノ通相定ム

明治三十四年四月四日

逓信大臣原 敬

千島國後島 同國擇捉島 大隅國大島 琉球國八重山島

ニ設置スルニ等郵便及電信局職員在勤月手當給與細則

第一條 千島國後島 同國擇捉島 大隅國大島 琉球國八重山島ニ設置スルニ等郵便及電信局職員在勤月手當ハ任地到着ノ翌日ヨリ之ヲ給ス但シ在勤スヘキ地ニ於テ新タニ任命セラレタル者ハ命令到達ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

轉任轉勤ヲ命セラレタル者ニハ舊任地出發ノ前日マテ舊ニ依リ之ヲ給ス但シ命令到達ノ日ヨリ出發前日マテ二十五日ヲ超ユルトキハ十五日間ニ限リ之ヲ給ス

特別ノ命令アルトキ又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ逓信大臣ノ許可ヲ得テ滯留スル者ハ前項但シ書ノ期限ニ拘ラス其ノ命令ノ期間又ハ許可ヲ得タル期間仍之ヲ給ス

第二條 退官休職ヲ命セラレ又ハ死亡シタル者ノ在勤月手當ハ其ノ當月分ノ全額ヲ給ス

退官休職ヲ命セラレタル者事務引繼殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ翌月ニ涉リ公務ニ從事スルトキハ其ノ翌月以降ハ日割ヲ以テ事務引繼殘務調理ノ當日マテ之ヲ給ス

第三條 局長ノ代理ヲ命セラレタル者ニハ其ノ任命ノ命令到達ノ日ヨリ解職ノ命令到達ノ當日マテ局長ノ受クヘキ在勤月手當ヲ給ス

第四條 病氣又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサル場合ニ於ケル在勤月手當ノ給與方ハ高等官官等俸給令第十八條ノ例ニ準ス

第五條

在勤月手當ハ毎月文官俸給支給日ニ之ヲ給ス

新任轉任轉勤退官休職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ前項支給期日ニ拘ラス之ヲ給ス但シ在勤月手當全額ヲ支給スヘカラサル者ニ對シテハ日割ヲ以テ計算ス

第六條 在勤月手當ニ異動ヲ生スルトキハ本令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外命令到達ノ日ノ翌日ヨリ計算ス

第七條 在勤月手當ノ日割計算方ハ其ノ月ノ現日數ニ依リ厘位未満ハ切捨トス

附則

第八條 本令ノ規定ハ明治三十四年三月三十一日分ヨリ之ヲ適用ス

○逓信省令第二十一號

明治三十一年^九月逓信省令第十七號中明治二十四年^七月逓信省令第七號在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金給與細則ヲ「明治三十四年^四月逓信省令第二十號千島國國後島、同國擇捉島、大隅國大島、琉球國八重山島ニ設置スル二等郵便及電信局職員在勤月手當給與細則」ニ改メ明治三十四年三月三十一日分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十四年四月四日

〔參照〕

明治三十一年^九月^十逓信省令第十七號ハ在清國帝國領事館附司檢官以下月手當金給與ノ手續準據ノ件ナリ

逓信大臣原 敬

○内務省令第十號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通り之ヲ定ム

明治三十四年五月二日

内務大臣文學博士男齋末松謙澄

炭坑稼人、川船稼人、石炭仲仕稼人、土方稼人ハ福岡縣粕屋郡及三池郡ニ於テ戎器爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帯スルハ此ノ限リニ在ラス

○内務省令第十一號

治安警察法第十八條ニ依リ戎器其ノ他ノ物件携帯禁止ノ件左ノ通り之ヲ定ム

明治三十四年五月十四日

内務大臣文學博士男齋末松謙澄

鐵道工事ニ従事スル土方工夫、土方工夫使用人、土方工事請負人ハ明治三十八年十二月三十一日迄鹿兒島縣下ニ於テ戎器、爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮ニ依リ爆發物ヲ携帯スルハ此ノ限ニ在ラス

○内務省令第十二號

明治三十二年内務省令第十七號第一條同年内務省令第十八號第一條及同年内務省令第五十八號中該報告アリタル後トアルヲ該報告ニ掲グル人口調査期日後「次回ノ報告アルマテノ間其ノ」トアルヲ其ノ處分以後ノ調査ニ屬スル人口ノ報告アルマテノ間ト改ム

明治三十四年五月十五日

内務大臣文學博士男齋末松謙澄

〔參照〕

内務省令第十七號(明治三十二年五月二十日)抄録

第一條 府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ
 特別ノ事情アリテ府縣ニ付テハ内務大臣ハ別ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得
 本條ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル但シ該報告アリタル後都市若ハ區ヲ廢置分
 合シ又ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ次同ノ報告アルマテノ間其ノ處分ヲ爲シタルトキノ現在調査ニ依リ府縣知事ノ告
 示シタル人口ニ依ル其ノ人口ノ告示ナキモノニ付テハ府縣知事ニ於テ之ヲ調査シ管内ニ告示スヘシ

内務省令第十八號(明治三十二年五月二十日)抄録
 第一條 郡制第四條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ
 特別ノ事情アリテ郡ニ付テハ府縣知事ハ別ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得
 本條ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人口ニ依ル但シ該報告アリタル後町村ヲ廢置分合シ又
 ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ次同ノ報告アルマテノ間其ノ處分ヲ爲シタルトキノ現在調査ニ依リ府縣知事ノ告示シタ
 ル人口ニ依ル

市制第五十八號(明治三十二年十二月七日)
 市制第五十八條及町村制第五十五條ニ規定セル市町村ノ人口ハ内閣統計局ニ於テ調査シ官報ヲ以テ報告スル最近ノ人口
 ニ依ル但シ該報告アリタル後市町村ヲ廢置分合シ又ハ其ノ境界ヲ變更シタルトキハ次同ノ報告アルマテノ間其ノ處分ヲ爲シ
 タルトキノ現在ニ依リ調査シタル人口ニ依ル其ノ人口ハ府縣知事ニ於テ之ヲ調査シ管内ニ告示スヘシ

○内務省令第十三號
 明治三十三年勅令第二百五十五號ノ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル施行規程左
 ノ通定ム

明治三十四年五月二十一日 内務大臣文學博士男爵末松謙澄

第一條 明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ノ組合員ハ北海道内ニ土地ヲ
 所有シ又ハ占有シテ農業ニ従事スル者ニ限ル

第二條 出資一口ノ金額ハ百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 第一回拂込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ二十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 勞務ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキハ定款ヲ以テ其ノ價額及出資ノ方法ヲ定ムヘシ

第五條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス
 組合ニ於テ借入金アルトキハ其ノ額ニ達スル迄前項準備金ノ外毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一
 以上ヲ積立ツヘシ

第六條 組合カ組合員ヨリ過急金ヲ徴收スルトキ又ハ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキ
 ハ其ノ金額ハ準備金ニ組入ルコトヲ要ス

第七條 持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ組合ニ於テ毎年北海道廳長官ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

第八條 明治三十三年勅令第二百五十五號第四條ニ依リ組合創業費ノ貸與ヲ受ケムトスル組合ハ
 左ノ書類ヲ添付シ北海道廳長官ニ申請スヘシ

- 一 貸與金使用ノ費途
- 一 返還期限及返還ノ方法
- 一 財産目録

- 一 貸借對照表
- 一 事業ノ狀況

第九條 組合カ事業ヲ停止シタルトキ又ハ組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續
 ヲ困難ナリト認ムルトキ其ノ他組合ノ行爲カ公益ヲ害スルノ虞アルトキハ北海道廳長官ハ返還
 期限前ト雖前條ノ貸與金ヲ返還セシムルコトヲ得

第十條 理事及監事ハ定款ノ規定ニ依ルニ非ラサレハ給料又ハ報酬ヲ受ケルコトヲ得ス但シ會計
 事務ニ專任スル理事ニシテ總會ノ決議ヲ經タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 理事ハ産業組合法ノ規定ニ依リ總會ニ提出シタル書類ハ其ノ決議ヲ經タル後遲滞ナク
決議書ヲ添ヘ之ヲ北海道廳支廳長ニ差出スコトヲ要ス
登記ヲ爲シタルトキハ其ノ登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ニ付テモ亦前項ニ同シ但シ組合
員名簿ニ記載シタル事項ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 北海道廳長官又ハ北海道廳支廳長ニ於テ産業組合法第六十條及第六十一條ノ規定ニ依
リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ北海道廳支廳長ハ北海道廳長官ニ北海道
道廳長官ハ内務大臣ニ報告スルコトヲ要ス
第十四條 組合ノ事業報告書記職ノ事項及出資額ノ減少組織ノ變更並合併ノ認可申請ニ關シテハ
産業組合法施行規則第八條第十條第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省令第十四號

明治三十三年六月勅令第二百五十五號北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ關スル件ハ明治
三十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年五月二十一日

内務大臣文學博士男爵末松謙澄

○大藏省令第七號

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程及明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ニ
依リ各地金庫ニ於テ保管スル有價證券ハ左ノ金庫へ移送シテ保管ヲ爲スコトアルヘシ

前項ニ依リ保管ヲ移シタル有價證券又ハ之ニ關スル利札賦札ノ拂戻ハ最初該證券ノ寄託ヲ受ケタ
ル金庫へ速ニ返送ノ上其金庫ニ於テ拂渡ヲ爲スヘシ

明治三十四年五月四日

大藏大臣子爵渡邊國武

京都本金庫

名古屋本金庫

札幌本金庫

中央金庫福島派出所

大阪本金庫

函館本金庫

中央金庫門司派出所

○大藏省令第七號

明治三十四年五月省令第六號中央金庫ノ前ニ中央金庫ノ四字ヲ加フ

明治三十四年五月六日

大藏大臣子爵渡邊國武

○大藏省令第八號

稅關貨物取扱人法施行細則

第一條 稅關貨物取扱人ノ業務ニ從事セムトスル者ハ營業所ヲ定メ管轄區域毎ニ所轄稅關長ニ出
願スヘシ但會社又ハ外國會社ノ支店ニ在テハ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

第二條 稅關長ハ免許ヲ與ヘムトスルトキハ本人ニ告知シ免許料ヲ納付セシメ免許狀ヲ交付スヘ
シ

第三條 免許料ハ貳拾圓トス收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第四條 稅關貨物取扱人ハ免許狀ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ身元保證トシテ五千圓又ハ之ニ
相當スル價格ヲ有スル有價證券ヲ提供スヘシ

第五條 稅關貨物取扱人カ身元保證トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキ又ハ稅關貨
物取扱人法第六條ノ適用ニヨリ身元保證金額減少シタルトキハ稅關長ハ本人ニ告知シ一箇月以

内ニ其ノ不足額ニ相當スル金錢又ハ有價證券ヲ提供セシムヘシ
 第六條 税關貨物取扱人カ身元保證トシテ提供スル金錢又ハ有價證券ハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ所轄税關ニ提出スヘシ
 第七條 税關貨物取扱人支店又ハ代理店ヲ設クルトキハ擔當人ヲ定メ其ノ所在地ノ税關又ハ税關支署ニ届出ツヘシ
 營業所又ハ代理店ヲ閉鎖シ若ハ移轉シ又ハ擔當人ヲ變更シタルトキ亦同シ
 第八條 税關貨物取扱人又ハ擔當人ハ其ノ從業者ノ氏名ヲ届出ツヘシ其ノ變更アルトキ亦同シ
 附則
 本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十四年五月二十七日

○陸軍省令第七號

大藏大臣侯爵西園寺公望

陸軍歸休兵豫備役兵後備役兵第一補充兵ノ演習召集ヲ爲スヘキ年次區分ヲ左ノ通定ム
 明治三十四年五月二日 陸軍大臣男爵兒玉源太郎

演習召集年次區分表

兵種	區分	
	歸休兵	豫備役兵
砲兵	第一補充兵	第一補充兵
騎兵	第一補充兵	第一補充兵
步兵	第一補充兵	第一補充兵
砲兵	第一補充兵	第一補充兵
騎兵	第一補充兵	第一補充兵
步兵	第一補充兵	第一補充兵

附則

- 一 擔架術卒業ノ者ハ演習上ノ必要ニ應ジテ第一年第三年ノ者ヲ召集スルコトアルヘシ
- 二 豫備役後備役兵卒ニシテ下士適任證書ヲ所持スル者ハ年次ニ拘ラス下士ノ勤務演習ニ召集スルコトアルヘシ但シ此場合ニ於テハ其年ニ於ケル兵卒ノ勤務演習ニ召集セス
- 三 歸休兵 警備隊ノ歩兵ハ秋季演習ノ際要員ヲ充足スル爲又ハ兵器典範改正ノ際等必要アルトキハ召集スルコトアルヘシ
- 四 砲兵輪卒及輜重輪卒ハ豫備役後備役ヲ問ハス秋季演習ノ際必要アルトキハ召集スルコトアルヘシ
- 五 豫備役騎兵一二等卒及後備役步兵騎兵砲兵工兵輜重兵ノ一二等卒並演習召集年次區分表ニ召集年次ヲ掲ケサルモノノ勤務演習ハ當分ニ之ヲ施行セス

兵種	區分	第一補充兵	第一補充兵	第一補充兵
工兵	工兵	第一補充兵	第一補充兵	第一補充兵
砲兵	砲兵	第一補充兵	第一補充兵	第一補充兵
騎兵	騎兵	第一補充兵	第一補充兵	第一補充兵
步兵	步兵	第一補充兵	第一補充兵	第一補充兵

六 明治三十年陸軍省令第八號ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十年四月陸軍省令第八號ハ陸軍師団兵隊備役兵後備役兵第一種充兵ノ演習召集ヲ爲スヘキ年次區分表ナリ

○陸軍省令第八號

陸軍一年志願兵條例施行細則中左ノ通改正ス

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

明治三十四年五月二十八日

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條中「第一種衣袴ヲ「絨衣袴」ニ「第二種衣袴」ヲ「略衣袴」ニ「第一種手躰」ヲ「軍隊手躰」ニ改ム

第九條第一項中「及衛戍地ヲ記シ」ノ下ニ「之ニ體格検査表ヲ添ヘ」ヲ加フ

第十二條中「付與シタル者」ノ下ニ「及第九條第一項ニ依リ通知ヲ受ケタル者」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項中近衛師團ニ係ルモノハ第一師團長ヨリ近衛師團長ニ送附シ近衛師團長ヨリ當該聯隊長ニ下付スヘシ

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

近衛師團長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ第一師團長ニ通知スヘシ

第十四條第一項中第三十二條ノ下「第二項」及「第三十四條」ヲ削リ「師團長」ヲ「師團長其ノ必要ノ事項」ニ改ム

同條第二項中「前項」者ヲ「前條及前項」ニ掲ケル各條ノ事項ニ由リ入隊セサル者ニ改ム

第二十二條 條例第三十九條ニ依リ臺灣ニ於テ服役スル者ニハ第一條ノ被服裝具中略衣袴ヲ作業

衣袴ニ飯盒ヲ飯行李ニ換ヘ別ニ日覆垂布ヲ給シ第一種帽ハ之ヲ給セス

附錄第一樣式中卒業證書寫ノ下ニ「戶籍謄本」ヲ加ヘ欄外記注ヲ左ノ通改ム

條例第九條ニ當ル者ハ「其學校卒業證書寫」ノ八字ヲ「其學校長證明書」ノ七字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歳未満ノ者ハ「相添」ノ上ニ「服役承認書」ノ五字ヲ挿入シ學術試験ヲ受ケヘキ者ハ「志願ニ候間」ノ下ニ「學術御試験」ノ上ニ「七字ヲ挿入シ其學校卒業證書寫ノ八字ヲ削ル

同第二樣式中卒業證書ノ下ニ「戶籍謄本」ヲ加フ

同第七樣式不採用者ノ欄中「條例第三十一條ニ當ル者」ヲ「入隊前禁錮ノ刑ニ處セラレタル者」ニ改メ

其ノ次ニ「入隊前死亡シタル者」ノ區畫ヲ設ケ「入隊前條例第三十五條ニ當ル者」ヲ「入隊前條例第三十五條第一號ニ當ル者」ニ改メ其ノ次ニ「入隊前條例第三十五條第二號ニ當ル者」ノ區畫ヲ設ケ

同第八樣式中「條例第十九條該當者」ヲ「條例第二十五條ノ一ニ當ル者」ニ改メ欄外記注第二號中「別記」スヘシヲ「別記」シ尙其ノ事由ヲ備考ニ記載スヘシニ改ム

〔參照〕
陸軍省令第十號陸軍一年志願兵條例施行細則(明治二十六年七月二十二日)抄錄
第二條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ
第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ衛戍地ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ各區望ノ兵科及衛戍地ヲ記シ當該所管ノ師團長ニ通知スヘシ
第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ 自費服役、官費服役、次年週シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長ニ「ハ」ヲ付シテ「下付スヘシ」
第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名書ヲ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊長官又ハ警備隊區隊長官ニ通知スヘシ
第十四條 條例第三十一條第三十二條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長之ヲ聯隊長ニ送スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊長官又ハ警備隊區隊長官ニ通知スヘシ
前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年週シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシム

明治三十四年五月 省令 陸軍省第九號 司法省第八號 第九號

ルコトヲ得

第二十二條 條例第三十九條ニ依リ服役スル者ニハ第一條ノ被服器具中第一種帽ヲ給セス

○陸軍省令第九號
第八師管現役輜重輸卒第二期ノ入營期日ハ徵兵事務條例第四十二條第四項ニ依リ本年ニ限り之ヲ八月十六日ニ變更ス

明治三十四年五月三十一日 陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○司法省令第八號

明治三十三年司法省令第十三號中左ノ通り改正ス

明治三十四年五月四日

島嶼在勤者月手當給與細則別表中裁判所書記ノ次へ左ノ三欄ヲ加フ

司法大臣男爵金子堅太郎

監獄書記	六	圓
看守長	六	圓
看守	五	圓

○司法省令第九號

一札幌地方裁判所管内札幌區裁判所室蘭出張所ハ之ヲ廢止ス

同地方裁判所管内札幌區裁判所紋釜峠田苦小牧、鶴川ノ四出張所ハ同地方裁判所管内室蘭區裁判所ノ出張所トス

本令ハ明治三十四年六月一日ヨリ施行ス

明治三十四年五月十五日

司法大臣男爵金子堅太郎

○司法省令第十號

東京地方裁判所管内伊豆國大島ノ内波浮港ニ東京區裁判所波浮出張所ヲ置キ水戸地方裁判所管内常陸國稻敷郡阿波村ニ龍ヶ崎區裁判所阿波出張所ヲ置キ長野地方裁判所管内信濃國小縣郡中鹽田村大字本郷ニ上田區裁判所本郷出張所ヲ置キ明治二十六年司法省令第十號登記管轄區域表中左ノ通改正ス但出張所開廳期日ハ追テ之ヲ定ム

明治三十四年五月十六日

司法大臣男爵金子堅太郎

地方裁判所	區裁判所	出張所	管轄
東京	東京	大島	大島ノ内
		波浮	大島ノ内
		伊豆	大島ノ内
		伊豆	新島村 岡田村 泉津村 野増村
水戸	龍ヶ崎	江戶崎	大島ノ内
		常陸	稻敷郡ノ内
		常陸	江戶崎町 君賀村 沼里村 君原村 鳩崎村 木原村
		常陸	安中村 古波村 高田村 太田村 柴崎村 金江津村
		常陸	阿波村 浮島村 伊崎村 大須賀村 十倉島村 本新島村
長野	上田	信濃	小縣郡ノ内
		信濃	上田町 神川村 豐里村 殿城村 木原村 長村
		信濃	傍陽村 神科村 鹽尻村 川邊村 城下村
		信濃	小縣郡ノ内
		信濃	中鹽田村 別所村 東鹽田村 西鹽田村 富士山村

明治三十四年五月 省令 司法省第十號

一二七

一二六

○文部省令第十二號

明治三十三年文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程中左ノ適改正ス

明治三十四年五月九日

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

文部大臣松田正久

- | | | | | | |
|----|----|-------|-------|----|-------|
| 修身 | 教育 | 國語及漢文 | 英語 | 佛語 | 獨語 |
| 歷史 | 地理 | 數學 | 物理及化學 | 博物 | 法制及經濟 |
| 習字 | 圖畫 | 家事及裁縫 | 體操 | 音樂 | 簿記 |
| 農業 | 商業 | 手工 | 手藝 | | |
- 歷史ハ日本史東洋史西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何三角法解析幾何微積分ノ四部ニ物理及化學ハ物理化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理植物礦物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫用器畫鉛筆畫用器畫ノ二部ニ家事及裁縫ハ家事裁縫ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス
三角法ハ算術代數幾何ニ解析幾何ハ三角法ニ微積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第五條 左ニ掲グル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者
- 二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

- 三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者
 - 四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者
 - 五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者
- 第六條 左ニ掲グル者ニシテ體操科ノ試験檢定ヲ出願シタルトキハ兵式體操ノ部分ヲ省ク
- 一 陸軍歩兵科士官
 - 二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者
- 第十一條 削除
- 第十三條 削除
- 第十五條 從前ノ規定ニ依リ認メラレタル豫備試験ノ合格竝ニ證明書ノ效力ハ仍其ノ有効期間存續ス

〔參照〕

文部省令第十號教員檢定ニ關スル規程(明治三十三年六月一日)抄錄

第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目ハ法令ニ規定アルモノニ限ル

國語、漢文ハ合セテ一學科目トシテ檢定ス

修身、倫理ハ同一學科目トシテ檢定ス

數學ハ算術代數幾何三角法ノ二部ニ博物ハ動物生理、植物、礦物ノ三部ニ圖畫ハ毛筆畫用器畫、鉛筆畫用器畫ノ二部ニ體操ハ普通體操、兵式體操ノ二部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手數料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

三角法ハ算術代數幾何ノ檢定ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第五條 左ノ第一號乃至第四號ニ掲ケル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ第五號ニ掲ケル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シ第六號ニ掲ケル者ハ其ノ教授シタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ノ指定シタル官立學校ノ卒業生及選科修了生

二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者 但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

六 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ一箇年以上教員タル者若ハ教員タリシ者

左ニ掲ケル者ハ體操ニ關シ前項第一號ニ準スルコトヲ得

一 陸軍歩兵科士官

二 元陸軍教導團歩兵科卒業生

三 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者

四 私立日本體育會體操學校本科優等卒業生

第六條 前條ニ依リ無試験檢定ヲ出願シタル者ニシテ教員檢定委員會ニ於テ試験ヲ必要ト認メラレタルトキハ本人ノ志望ニ依リ更ニ出願ヲ要セス次期ノ試験檢定ニ於テ出願ノ學科目ニ就キ直ニ本試験ヲ受クルコトヲ得

第十條 豫備試験ニ合格シタル者ハ附後引續キ行フ本試験ヲ三回マテ受クルコトヲ得

第十一條 受檢人歴史、地理及算術代數幾何ノ試験ニ合格セザルモ其ノ一部分ノ成績佳良ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試験ヲ行フ但シ證明書ノ效力ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 本令施行ノ際同一學校ニ於テ同一學科目ニ就キ三箇年以上引續キ現ニ教授ニ從事シ成績佳良ナル者ニ就テハ地方長官ノ稟中ニ依リ其ノ教授シタル學科目ニ關シ其ノ學校ト同種類ノ學校ノ教員トシテ特ニ無試験檢定ヲ行フコトアルヘシ

○農商務省令第五號

肥料取締法施行規則左ノ通相定ム

農商務大臣林 有造

明治三十四年五月二十一日

肥料取締法施行規則

第一條 肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官(東京府下倣之)ニ差出スヘシ

一 製造場及ヒ販賣所ノ位置

二 肥料ノ名稱

三 原料ノ種類

四 肥料ノ製造方法

肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其認可ヲ受ケヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ其旨ヲ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三條 左ノ肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ニ肥料ノ名稱、肥料百分中ノ主成分

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ本令第四條第一項ニ準シ必要ナル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

第十五條 明治二十九年文部省令第十二號師範學校、中學校、高等女學校教員免許規則ニ依リ豫備試験ノ合格者及證明書ノ受領者ニ對シテハ本令第十條第十一條ヲ準用シ仍其ノ效力ヲ存續セシム

量及ヒ自己ノ氏名、住所ヲ記載シ之ヲ肥料ノ各容器又ハ各箇ニ附スヘシ

一 過燐酸石灰、重過燐酸石灰、沈澱燐酸石灰、磷酸鹽類、アンモニヤ鹽類、加里鹽類、其他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料

二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、血粉、「トーマス」燐肥、其他特ニ粉碎シタル肥料

三 菜種油糞及ヒ綿實油糞

四 前各號ノ肥料ヲ調合シ又ハ之ヲ以テ主タル材料トシタル肥料

前項ノ規定ハ容器ヲ變更又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ

主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及ヒ硝酸性又ハ「アンモニヤ」性窒素ノ量トシ、燐酸ニ在リテハ全燐酸水ニ溶解スル燐酸及ヒ枸橼酸「アンモニヤ」ニ溶解スル燐酸ノ量トス

第四條 前條第一項ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認めタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得

第五條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓渡ス毎ニ其名稱、數量及ヒ知レタル相手方ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

第六條 製造販賣又ハ輸入販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日マテニ前年中ニ販賣シタル肥料ノ種類別ノ數量及ヒ價額ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第七條 検査ノ爲メ必要ナル肥料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

採取シタル肥料ハ二分シ之ヲ各別ノ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ場所ヲ記載シ官吏及ヒ立會人ノ之ニ記名封印スヘシ

第八條 検査ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫以下トス

第九條 肥料ノ検査ニ從事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 第一條第三項、第二條、第三條、第五條若クハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

地方長官第四條ニ依リ保證票ヲ附スヘキ肥料ヲ指定シタル場合ニ於テ保證票ヲ附セスシテ之ヲ販賣シタル者亦同シ

附則

第十一條 本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行ノ後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ

○逓信省令第二十二號

明治三十三年^四 逓信省令第八號 本邦ト在韓國本邦郵便電信局郵便局間直發著電報取扱規則第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ本日ヨリ施行ス

明治三十四年五月二日

逓信大臣原 敬

○逓信省令第二十三號

明治三十三年^四 逓信省令第九號 在韓國本邦郵便電信局郵便局相互ノ間ニ發著スル電報ニハ内國

電信ノ規定ヲ準用スル件第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加シ本日ヨリ施行ス

明治三十四年五月二日

逓信大臣原 敬

八 本邦ニ宛テタル和文電報ハ外國郵送電報トナスコトヲ得

○逓信省令第二十四號

明治三十四年五月三號 逓信省令第十二號郵便爲替證書線引讓渡規則ハ之ヲ外國郵便爲替ニ準用ス但シ萬國聯合郵便爲替ニ在リテハ爲替券ノ裏面ニ於ケル讓渡裏書ノ場所ニ線引ヲ爲スヘシ線引ヲ爲シタル外國郵便爲替券ニ對シ銀行ヨリ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルトキハ外國郵便爲替規則第二十二條ノ手續ヲ爲サス之カ拂渡ヲ爲スヘシ

明治三十四年五月十八日

逓信大臣原 敬

○逓信省令第二十五號

明治三十一年十月 逓信省令第二十號航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受クル船舶郵便物運送規則中左ノ通改定ス

明治三十四年五月二十四日

逓信大臣原 敬

第一條中「帝國發航地郵便局」トアルヲ「帝國内發航地及寄港地郵便局」ト改メ但書ヲ削除ス
第二條中「前條ノ發航地若ハ最終ノ寄港地」トアルヲ「前條ノ帝國内發航地及寄港地」ト改メ
第十條中「此ノ場合ニ於テハ」ノ次ニ「電報ヲ以テ」ノ五字ヲ加ヘ「郵務局」ノ三字ヲ削除ス

〔參照〕

逓信省令第二十號航海獎勵法ニ據リ保護ヲ受ル船舶郵便物運送規則(明治三十一年十月八日)抄録
第一條 航海獎勵法ニ據リ認許ヲ受ケタル船舶所有者其ノ船舶ヲ航海獎勵金ヲ受クル航海ニ使用セントスルトキハ其ノ郵

度所有者其ノ代人若ハ本船ノ船長ヨリ船名並ニ發航地寄港地到達地及其ノ各地發着豫定年月日時ヲ運クモ出發ノ前日ニ於テ帝國發航地郵便局(届出ヘシ)
但シ帝國各港(寄港シ外國ノ發航スル船舶ニ在テハ發航地郵便局ヘハ届出ヲ要セス帝國内最終ノ寄港地郵便局ヘ運クモ其ノ港出發ノ前日ニ於テ本條ノ届出ヲナスヘシ
前項ニ據リ届出タル事項ヲ變更セントスルトキハ速ニ其ノ旨ヲ届出ヘシ
第二條 前條ノ發航地若ハ最終ノ寄港地ヲ出發セントスルトキハ船長ハ成ルヘク其ノ時刻ニ接近セル時ニ於テ郵便局ヘ其ノ船員ヲ出頭セシメ積載スヘキ郵便物(積載スル郵便物ノ種類及積載方法)並ニ其ノ時刻ニ接近セル時ニ於テ郵便局ヘ其ノ郵便物(積載スル郵便物)ノ積載スルトキハ船内ニ於テ受取ノ手續ヲナスヘシ
但シ郵便官當該船舶ヘ出張シ郵便物ヲ積載スルトキハ船内ニ於テ受取ノ手續ヲナスヘシ
第十條 航海中遭難其ノ他ノ事故アリタルトキハ最モ郵便物ノ保護ニ注意シ最寄郵便局ヘ送付若ハ他船ヘ移載スル等本船ノ船長限リ臨機適當ノ處置ヲナスヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ顛末ヲ逓信省郵務局ヘ報告スヘシ

○逓信省令第二十六號

火藥類鐵道運送規程左ノ通相定メ明治三十四年六月十五日ヨリ施行ス

明治十八年四月工部省告示第十四號火藥類鐵道運送條規ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

逓信大臣原 敬

明治三十四年五月二十四日

逓信大臣原 敬

火藥類鐵道運送規程
第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スルトキハ本規程ヲ遵守スヘシ
第二條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締法施行規則ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ場合ニ於テハ鐵道係員ハ其許可證ヲ檢閱スヘシ
第三條 火藥類ノ荷送人ハ少クドモ四十八時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ承諾ヲ求ムヘシ
第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍衙ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得
前項ノ火藥類ハ其ノ容器ノ外部見易キ所ニ火藥ト標記スヘシ

第五條 火藥類ノ受授ハ專務ノ鐵道係員ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
 火藥類ノ持込ミハ鐵道係員ヨリ特定シタル日時ニ限ル
 第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得
 附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ス
 附添人ノ乘車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス
 第七條 無蓋貨車ハ火藥類ノ運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス有蓋貨車ト雖モ其ノ内部ニ鐵製ノ釘又
 ハ螺絲等ノ突起スルモノ亦同シ
 第八條 銃砲火藥類取締法施行規則ニ依リ別所ニ藏置スルコトヲ要スル火藥類ハ一車中ニ之ヲ混
 載スルコトヲ得ス
 銃砲火藥類取締法施行規則ニ依リ離隔ヲ要スル火藥類ヲ一車中ニ積載スルトキハ之ヲ離隔スヘ
 第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス又其ノ重量ハ一車四
 噸以下ニ限ル
 第十條 火藥類ハ左ノ事項ヲ具備スル場合ノ外之ヲ他ノ貨物ト一車中ニ混載スルコトヲ得ス
 一 小銃用安全彈藥筒雷管若ハ爆管ノミヲ裝著セル銃砲ノ空莖莖安全導火線起爆劑ヲ附セサ
 ル黃色藥及五十斤以下ノ火藥(ダイナマイト)縮火藥等劇發火藥類ヲ除クニシテ其ノ包裝
 ヲ安全堅牢ナラシメ且外部見易キ所ニ火藥ト明記シタルトキ但シ火藥ハ黃色藥ト混載スル
 コトヲ得ス
 二 混載貨物カ容易ニ燃焼シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルトキ

三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セサルトキ
 四 混載貨物カ火藥類ト同一停車場ヨリ發送スルモノナルトキ
 五 混載貨物カ火藥類ヨリ後ニ荷卸ヲ爲スヘキモノナルトキ
 第十一條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉轍セサル様緊密ニ積載スヘシ
 第十二條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ
 其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタルトキノ外之ヲ轉轍スルコトヲ得ス
 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿テ又ハ燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ
 吸煙スルコトヲ得ス
 火藥類ノ取扱ハ遲滞ナク之ヲ完了スヘシ
 第十三條 火藥類積載ノ貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト赤書シタル標札ヲ附スヘシ
 第十四條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ不燃質物ヲ積載シタル貨車若ハ空車ヲ聯結ス
 ヘシ
 第十五條 火藥類積載ノ貨車ハ五輛以下ニ非サレハ他貨物積載ノ列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス
 第十六條 鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十條第一號ニ掲ケタル火藥ノ外總テ火藥類ヲ積載
 シタル貨車ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス
 第十七條 火藥類積載ノ貨車ニ於テハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車側制動機ハ此ノ限ニ在
 ラス
 第十八條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場迄直進スル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ムヲ得サル場合ノ
 外運送中ノ他ノ貨車ニ積替ユルコトヲ得ス
 第十九條 火藥類運送ノ列車カ停止スルトキハ特ニ車軸ヲ點檢シ危險ヲ生スルノ虞アリト認ムル

トキハ即時ニ車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ
 列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ進行ヲ止メ又ハ徐行シテ次ノ停車場ニ到リ即時ニ車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ
 第二十条 火藥類運送ノ列車カ一時間以上ノ停止ヲ要スルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ巡查駐在所派出所若ハ停車場出張ノ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ
 第二十一条 火藥類積載ノ貨車カ到達停車場ニ達シタルトキハ即時ニ之ヲ荷受人ニ通知シ遲滞ナク停車場外ニ其ノ火藥類ヲ搬出セシムヘシ但シ附添人アル場合ニ於テハ附添人ヲシテ直ニ之ヲ受取ラシムルコトヲ得
 荷受人カ六時間内ニ其ノ火藥類ヲ停車場外ニ搬出セサルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ
 第二十二条 旅客ハ火藥類ヲ攜帶シテ乘車スルコトヲ得ス但シ少量ノ小銃用火藥類ヲ攜帶スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 ○遞信省令第二十七號
 明治三十四年五月二十九日 遞信大臣原 敬
 明治三十四年五月二十九日 遞信省令第十九號在外國郵便及電信局官吏手當給與細則第一號表中城津ノ次ニ左ノ通追加ス

平	任	所	奏	任	局	長	技	書	手	記	密	記	補
環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環	環
一〇八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇	七八〇

○内務省令第十五號

明治三十年^四拓殖務省令第三號北海道移住民規則中左ノ通り改正ス

明治三十四年六月五日

内務大臣男爵内海忠勝

第六條 國有未開地貸付ノ許可書若ハ北海道廳長官又ハ北海道廳支廳長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人ニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス
 北海道移住民ノ募集ヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル法人ニシテ豫メ北海道廳長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セス

〔參照〕

拓殖務省令第三號北海道移住民規則(明治三十年四月十日)抄録

第六條 北海道廳ノ下付シタル土地貸付ノ指令書若ハ北海道廳長官又ハ北海道ニ於ケル郡區長ノ證明書ヲ有スル本人又ハ代理人ニアラサレハ府縣ニ於テ北海道ニ移住スヘキ小作人ヲ募集シ又ハ小作人ヲシテ北海道ニ移住セシムルコトヲ得ス

○内務省令第十六號

醫籍藥劑師名簿編成並加除訂正規程左ノ通り定ム

明治三十四年六月七日

内務大臣男爵内海忠勝

醫籍藥劑師名簿編成並加除訂正規程

第一章 總則

第一條 道廳府縣廳郡市役所及町村役場ニハ醫籍藥劑師名簿ヲ備ヘ置クヘシ
 醫籍藥劑師名簿ハ醫籍藥劑師現在調査票ヲ以テ調査ヲ行ヒ之ヲ編成スヘシ

前項ノ調査ハ明治三十四年七月三十一日ノ現在ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二條 醫籍藥劑師名簿ノ加除訂正ハ醫籍藥劑師動態調査票ニ依リ之ヲ行フヘシ

第三條 現在調査及動態調査ノ調査票並郡送致目錄及市町村送致目錄ノ用紙ハ内務省ヨリ之ヲ道廳府縣廳ニ配送ス

第四條 醫師藥劑師ノ現在調査及動態調査ハ市町村長之ヲ行フヘシ

地方長官必要アリト認メタルトキハ警察官吏ヲシテ前項ノ調査ヲ補助セシムルコトヲ得

東京府ニ於テハ警視總監東京府知事協議シ此ノ調査ヲ行ハシムヘシ

第五條 現在調査及動態調査ノ調査票並其ノ市町村送致目錄郡送致目錄道廳府縣廳送致目錄ノ記入方ハ附録記入例ニ依ルヘシ

第六條 此ノ規程ニ於テ市町村長又ハ市役所町村役場トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員又ハ其ノ吏員ノ職務ヲ行フ役場ヲ云ヒ東京市京都市大阪市及明治三十三年勅令第九十八號ニ依リ區ヲ置キタル市ニ於テハ區長及區役所ヲ云フ

北海道及沖繩縣ノ區ハ市ニ準ス

郡役所トアルハ北海道ニ於テハ支廳ヲ云ヒ島廳ヲ置キタル地ニ於テハ島廳ヲ云フ

第二章 醫師藥劑師現在調査

第七條 道廳府縣廳ニ於テハ内務省ヨリ配送シタル用紙ヲ明治三十四年六月二十日マテニ各郡市役所町村役場ニ配付スヘシ

第八條 市町村長ハ調査期日ニ於ケル其ノ市町村内現住ノ醫師藥劑師ヲ調査シ各一人ノ記入事項ヲ各一葉ノ調査票ニ記入スヘシ

市町村長ハ前項ノ調査ニ基キ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ置クヘキ醫籍藥劑師名簿ヲ編成スヘシ

市町村長ハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了リタル後調査票ヲ一括ト爲シ市町村送致目錄ヲ添ヘ明治三十四年八月三十一日限リ市長ハ道廳府縣廳ニ町村長ハ郡役所ニ回送スヘシ

醫師及藥劑師ノ現住者ナキ市町村ニ於テハ市町村送致目錄ノミヲ前項ニ準シ回送スヘシ

第九條 郡役所ニ於テハ町村長ヨリ回送シ來リタル調査票ノ枚數ヲ市町村送致目錄ト照查シ若符合セサルモノアルトキハ町村長ニ通知シテ訂正セシメ其ノ完備セル調査票ニ基キ郡役所ニ備ヘ置クヘキ醫籍藥劑師名簿ヲ編成スヘシ

郡役所ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了リタル後調査票ノ枚數ヲ市町村送致目錄ト照查シ郡送致目錄ヲ添ヘ明治三十四年九月三十日限リ道廳府縣廳ニ回送スヘシ

第十條 道廳府縣廳ニ於テハ市長ヨリ回送シ來リタル調査票ノ枚數ヲ市町村送致目錄ト照查シ郡役所ヨリ回送シ來リタル調査票ノ括數並市町村送致目錄ノ枚數ヲ郡送致目錄ト照查シ若符合セサルモノアルトキハ郡役所又ハ市長ニ通知シテ訂正セシメ其ノ完備セル調査票ニ基キ道廳府縣廳ニ備ヘ置クヘキ醫籍藥劑師名簿ヲ編成スヘシ

道廳府縣廳ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了リタル後調査票ノ枚數ヲ市町村送致目錄ト照查シ調査票ノ括數及市町村送致目錄ノ枚數ヲ郡送致目錄ト照查シ道廳府縣廳送致目錄ヲ添ヘ明治三十四年十月三十一日限リ内務省ニ回送スヘシ

第三章 醫師藥劑師動態調査

第十一條 動態調査ノ調査票及市町村送致目錄郡送致目錄用紙ハ毎年四月中内務省ヨリ道廳府縣廳ニ配送ス

道廳府縣廳ニ於テハ前項ノ用紙ヲ五月三十一日マテニ各郡市役所町村役場ニ配付スヘシ

郡市役所町村役場ニ於テハ使用シ餘リタル用紙ヲ次年ノ用ニ供スヘシ

第十二條 市町村長ハ其ノ市町村内現住ノ醫籍藥劑師ニ左ノ異動アリタルトキ之ヲ調査票ニ記入スヘシ

開業 休業 復業 廢業

本籍變更 族稱變更 改姓 改名

他ノ市町村ヨリ來住 一市町村内ノ轉居 他ノ市町村へ轉居 海外移住 海外旅行 歸朝

失踪決定 失踪取消 死亡

其ノ他ノ異動

市町村長ハ前項ノ調査票ニ基キ市役所町村役場ニ備フル醫籍藥劑師名簿ヲ加除訂正スヘシ

市町村長ハ前項ノ加除訂正ヲ了リタル調査票ヲ六箇月毎ニ一括ト爲シ市町村送致目録ヲ添ヘ左ノ期日ニ市長ハ道廳府縣廳ニ町村長ハ郡役所ニ回送スヘシ

第一期 一月二月三月四月五月六月中ノ分

右發送期日 七月三十一日

第二期 七月八月九月十月十一月十二月中ノ分

右發送期日 次年一月三十一日

醫籍藥劑師ノ異動ナキ市町村ニ於テハ市町村送致目録ノミヲ前項ニ準シ回送スヘシ

第十三條 郡役所ニ於テハ町村長ヨリ回送シ來リタル調査票ノ枚數ヲ市町村送致目録ト照查シ若符合セサルモノアルトキハ町村長ニ通知シテ訂正セシメ其ノ完備セル調査票ニ基キ郡役所ニ備

フル醫籍藥劑師名簿ヲ加除訂正スヘシ

郡役所ニ於テハ前項ノ加除訂正ヲ了リタル後調査票ノ枚數ヲ市町村送致目録ト照查シ郡送致目録ヲ添ヘ左ノ期日ニ道廳府縣廳ニ回送スヘシ

第一期ノ分 發送期日 八月十五日

第二期ノ分 發送期日 次年二月十五日

第十四條 道廳府縣廳ニ於テハ市長ヨリ回送シ來リタル調査票ノ枚數ヲ市町村送致目録ト照查シ郡役所ヨリ回送シ來リタル調査票ノ枚數ヲ郡送致目録ト照查シ若符合セサルモノアルトキハ郡役所又ハ市長ニ通知シテ訂正セシメ其ノ完備セル調査票ニ基キ道廳府

縣廳ニ備フル醫籍藥劑師名簿ヲ加除訂正スヘシ

道廳府縣廳ニ於テハ前項ノ加除訂正ヲ了リタル後調査票ノ枚數ヲ市町村送致目録ト照查シ調査票ノ枚數及市町村送致目録ノ枚數ヲ郡送致目録ト照查シ道廳府縣廳送致目録ヲ添ヘ左ノ期日ニ

内務省ニ回送スヘシ

第一期ノ分 發送期日 八月三十一日

第二期ノ分 發送期日 次年二月二十八日

附錄 記入例

甲 現在調査票 様式第一乃至第五参照

第一 總テ記入スヘキ文字及圈點ハ明瞭ニ朱記スヘシ

第二 票ノ前部ハ調査ヲ行フタル市役所町村役場名並其ノ役所役場ノ屬スル道廳府縣郡名ヲ記入スヘキ場所ニシテ且同時ニ被調査者ノ住所ノ一部ヲ表章スヘキ場所ナリ

- 第三 (一)ノ項ニハ被調査者ノ氏名ヲ記入スヘシ
 第四 (二)ノ項ニハ被調査者ノ住所ヲ記入スヘシ
 此ノ項ノ上欄ニ「區、町、大字」トアルハ區ヲ有スル市ニ在テハ何區何町何丁目ト他ノ市町村ニ在テハ大字名ヲ記入スルコトヲ示シタルモノトス
 此ノ項ニ道廳府縣郡市町村名ノ記入ヲ省キタルハ既ニ前部ノ記入ニ依テ之ヲ知り得ヘキカ故ナリ若調査ヲ行フタル役所役場ニシテ數市町村組合ノモノナルトキハ自然被調査者ノ屬スル市町村名ノ明瞭ヲ缺クコトアルヘキヲ以テ此ノ場合ニ於テハ下欄ノ右方ニ被調査者ノ屬スル市町村名ヲ記入スヘシ
 此ノ項ノ中欄ニ「番地」トアルハ複雑ヲ避ケンカ爲單ニ其ノ一ヲ示シタルモノニシテ番戶番邸番屋敷等ノ標號ヲモ包含シアルモノト知ルヘシ(三)ノ項最下欄モ亦同シ
 被調査者若一戸ヲ有セスシテ他人ノ家ニ寄留又ハ同居シアル場合ニ於テハ下欄ノ左方ニ其ノ戶主ノ氏名ヲ記入スヘシ
 第五 (三)ノ項ニハ被調査者ノ本籍ヲ記入スヘシ
 本籍ハ必スシモ住所ト同一ナラサルヘキヲ以テ特ニ仔細ニ道廳府縣郡市町村名ヲ記入スヘキ欄ノ設ケアリ
 被調査者戶主ニアラサル場合ニ於テモ戶主トノ續柄ヲ調査スヘキ必要ナキヲ以テ其ノ欄ヲ設ケス
 第六 (四)ノ項ニハ被調査者ノ年齢ヲ記入スヘシ
 總テ年齢ハ生年月日ヲ記入スヘシ

- 第七 (五)ノ項ハ被調査者ハ華族ナルヤ士族ナルヤ將タ平民ナルヤヲ表示スヘキ場所ナリ調査票ニ印刷シアル三種ノ族稱中「被調査者」ノ屬スル族稱名ノ右側ニ「圈點」ヲ付スヘシ
 第八 (六)ノ項ハ被調査者ハ醫師、齒科醫師、口中科、整骨科、藥劑師ノ五種別中何レニ屬スルヤヲ表示スヘキ場所ナリ調査票ニ印刷シアル五種ノ種別中「被調査者」ノ屬スル種別名ノ右側ニ「圈點」ヲ付スヘシ
 口中科及整骨科トハ從前内務省ニ於テ免狀ヲ下付シタル者ヲ云フ故ニ地方廳限リノ免許ニ係ル入齒齒拔、口中療治若ハ接骨ノ輩ト同一視スヘカラス
 第九 (七)ノ項ハ被調査者ノ免狀ヲ受ケタル事由ヲ表示スヘキ場所ナリ調査票ニ印刷シアル十種ノ事由中「被調査者」ノ屬スル事由名ノ右側ニ「圈點」ヲ付スヘシ
 「試験及第」 現行醫術開業試験規則ニ依リテ舉行セル醫術開業試験ニ及第シタル醫師齒科醫師及現行藥劑師試験規則ニ依リテ舉行セル藥劑師試験ニ及第シタル藥劑師ヲ云フ
 「舊試験及第」 現行醫術開業試験規則實施以前各地方廳ニ於テ舉行セル醫術開業試験ニ及第シタル醫師、内外科、内科、外科、眼科、産科ヲ含ム、齒科醫師、整骨科、及現行藥劑師試験規則實施以前各地方廳ニ於テ舉行セル藥劑開業試験ニ及第シタル藥劑師ヲ云フ
 「大學卒業」 東京大學醫學部醫學科製藥科藥學科又ハ帝國大學醫科大學醫學科藥學科ヲ卒業シタル醫師及藥劑師ヲ云フ
 「高等學校卒業」 高等中學校醫學部醫學科藥學科又ハ高等學校醫學部醫學科藥學科ヲ卒業シタル醫師及藥劑師ヲ云フ

「府縣立醫學學校卒業」 府縣立ニ係ル甲種醫學學校又ハ特許醫學學校ヲ卒業シタル醫師ヲ云フ
 「外國醫(藥)學校卒業」 現行醫師免許規則第四條ニ該當スル醫師、齒科醫師及現行藥品營業並
 「藥品取扱規則第四十六條第二項ニ該當スル藥劑師ヲ汎稱ス」
 「奉職履歷」 明治十年内務省達乙第七十六號及明治十六年内務省達乙第四十七號ニ該當スル
 「醫師ヲ云フ」
 「從來開業」 明治十七年内務省達乙第四號ニ該當スル醫師 眼科、內科、外科、及口中科、整骨科
 「從來開業醫子弟」 明治十五年内務省達乙第十四號ニ該當スル醫師 眼科、內科、外科、及口中科、
 「限地許可」 現行醫師免許規則第五條及明治十七年内務省訓示乾衛甲第十四號ニ該當スル假
 「開業醫師ヲ云フ」
 第十 (八)ノ項ニハ被調査者ノ有スル免狀ノ番號及其ノ免狀下付ノ日ヲ記入スヘシ
 免狀下付ノ日トハ内務省ノ醫籍又ハ藥劑師名簿ニ登錄シ免狀ヲ下付シタル日ニシテ即チ免狀
 面ニ記載シアル日ヲ云フ
 第十一 (九)ノ項ハ被調査者現在ノ狀況ヲ記入スヘキ場所ナリ調査票ノ本項右欄ニ印刷シアル四
 種ノ狀況中被調査者ノ該當スル文字ノ右側ニ圈點ヲ付スヘシ
 若ニ種ノ狀況ヲ併有スル者ナルトキハ其ノ該當スル二種ノ狀況ヲ表示スヘシ
 印刷シアル文字ヲ以テ狀況ヲ表示シ能ハサルモノアルトキハ左欄其他ノ下ニ其ノ狀況ヲ記
 載スヘシ

藥局ヲ開設シアル藥劑師ハ「開業シアリ」ニ開設シナキ者ハ「開業セス」ニ相當ス
 第十二 被調査者若外國人ナルトキハ其ノ氏名ハ片假名ヲ以テ記入シ木籍ノ項ニハ其ノ國籍名
 ノミヲ記入シ族稱ハ記入ヲ要セス
 第十三 被調査者若一人ニシテ二種以上ノ業務例之ハ醫師ニシテ藥劑師ヲ齒科醫師ニシテ藥劑
 師ヲ兼ヌル者アルトキハ各業務ニ付各一葉ノ調査票ニ記入スヘシ
 乙 現在調 市町村送致目録 様式第六号
 至第八号照
 第一 總テ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ
 第二 前部ニハ調査票ヲ發送スル市役所町村役場名ヲ記入スヘシ
 第三 中部ニハ調査票ノ枚數ヲ各業務ノ種別ニ分チテ記入スヘシ
 第四 後部ニハ各取扱主任者カ調査ノ誤謬ナキコトヲ證スル爲其ノ認印ヲ押捺スル場所ナリ
 市役所町村役場ニ於テハ此ノ目録ヲ記載シ了リタル際誤謬ナキヤ否ヤヲ檢シ全ク誤謬無シト
 認メタルトキ主任者ハ第六欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ
 郡役所ニ於テハ町村役場ヨリ到達シタル調査票ノ枚數ヲ此ノ目録ト照査シ誤謬ナキコトヲ認
 メタルトキ主任者ハ第五欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ若誤謬アリテ町村長ニ訂正ヲ通知シタル
 トキハ其ノ訂正了リタル後捺印スヘシ
 郡役所ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ郡送致目録ヲ記載シタル後再々此ノ目録ト調査票ノ
 枚數及郡送致目録ノ記載トヲ照査シ誤謬ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第四欄ニ認印ヲ押
 捺スヘシ
 道廳府縣廳ニ於テハ郡役所又ハ市役所ヨリ到達シタル調査票及郡送致目録ト此ノ目録トヲ照

查シ誤謬ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第三欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ若誤謬アリテ郡役所又ハ市長ニ訂正ヲ通知シタルトキハ其ノ訂正ヲ了ハリタル後捺印スヘシ

道廳府縣廳ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了ハリタル後再ヒ此ノ目錄ト調査票ノ枚數トヲ照査シ誤謬ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第二欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

第五 市町村内ニ或ル種別者ノ居住シアラサル場合ニ於テハ當該種別名下ノ「調査票枚數」欄ニ斜線ヲ引キ其ノ直下ノ「備考」欄ニ「ナシ」ト記スヘシ

全ク被調査者ノ居住シアラサル市町村ニ於テハ「調査票枚數」欄ノ全部ニ斜線ヲ引キ「備考」欄ニ「絶無」ト記スヘシ

第六 市町村長ハ此目錄ノ發送ニ際シ「備考」欄ノ餘白ニ交付ヲ受ケタル調査票ノ枚數及其ノ殘存枚數並書損枚數ヲ記載シ置クヘシ

丙 現在調 郡送致目錄 第十參照

第一 總テ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ

第一 前部ハ發送スル郡役所名ヲ記入スル場所ニシテ且各取扱主任者カ調査ノ誤謬ナキコトヲ證スル爲其ノ認印ヲ押捺スル場所ナリ

郡役所ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了リ調査票ノ枚數ヲ檢シ市町村送致目錄ト此ノ目錄ノ記載トヲ照査シ誤謬ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第五欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

道廳府縣廳ニ於テハ郡役所ヨリ到達シタル調査票ノ括數共ノ枚數及市町村送致目錄ノ枚數ヲ檢シ此ノ目錄ノ記載ト相違ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第二欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ若誤謬アリテ郡役所ニ訂正ヲ通知シタルトキハ其ノ訂正ヲ了リタル後捺印スヘシ

道廳府縣廳ニ於テハ醫籍藥劑師名簿ヲ編成シ了リ調査票ノ括數共ノ枚數及市町村送致目錄ノ枚數ヲ檢シ此ノ目錄ト照査シ誤謬ナキコトヲ認メタルトキ主任者ハ第一欄ニ其ノ認印ヲ押捺スヘシ

第三 中部ニハ郡役所所轄内ノ町村總數、市町村送致目錄ノ枚數及調査票ノ括數ヲ記入スヘシ

町村ノ組合役場ヲ有スル郡ニ於テハ「市町村送致目錄枚數」欄數字ノ下ニ其ノ組合役場數ヲ記スヘシ

第四 後部ニハ市町村送致目錄ノ中部ニ記載シアル各種別ニ分チタル調査票枚數ノ各町村合計數ヲ記入スヘシ

丁 現在調 道廳府縣廳送致目錄 第十參照

第一 此ノ目錄ハ道廳府縣廳用普通ノ美濃野紙ヲ以テ作製シ文字ハ總テ墨書スヘシ

第二 此ノ目錄ニハ各郡市ニ別チタル區町村數、市町村送致目錄枚數及調査票ノ市町村別括數ヲ記載スヘシ

第三 此ノ目錄ヲ記載シ了リタルトキ道廳府縣廳ノ主任者ハ前部ニ其ノ認印ヲ押捺シ記載ノ誤謬ナキコトヲ證スヘシ

戊 醫籍藥劑師名簿 第十一參照

第一 醫籍藥劑師名簿ノ用紙ハ道廳府縣廳郡市役所町村役場ノ各所ニ備ヘ置クヘキモノ總テ同一様式ニシテ醫師藥劑師ニ共用スルコトヲ得

第二 醫籍藥劑師名簿ハ醫籍、齒科醫籍、口中科醫籍、整骨科醫籍、藥劑師名簿ノ五種ニ別チテ編成スヘシ

- 記入スヘキ人員少キ郡市役所町村役場ニ於テハ各種別ニ分界ヲ設ケ合冊ト爲スコトヲ得
- 第三 醫籍藥劑師名簿ニ記入スヘキ文字ハ總テ墨書スヘシ
- 第四 醫籍藥劑師名簿ノ用紙美濃ニハ一枚ニ付四名ヲ記入スルコトヲ得一名ノ記載區域ヲ前後ノ二部ニ分チ前部ハ現在調査票記載ノ事項ヲ記入シ後部ハ調査後ノ異動ヲ記入スヘキ場所トス
- 現在調査票ノ(一)ハ醫籍藥劑師名簿用紙ノ前部下段中欄ニ(二)ハ同中段前欄ニ(三)ハ同中段後欄ニ(四)ハ同下段後欄ニ(五)ハ同下段前欄ニ(七)ハ同上段前欄ニ(八)ハ同上段中後ノ二欄ニ(九)ハ後部ニ記入スヘシ
- 己 動態調査票様式第十二号 至第十六号参照
- 第一 總テ記入スヘキ文字及圈點ハ明瞭ニ朱記スヘシ
- 第二 票ノ前部ハ現在調査票ノ第二ニ準シ且最下欄右方ニ調査ヲ行フタル年及期ヲ記入スヘシ
- 第三 (一)ノ項ニハ被調査者ノ氏名及年齢生年月日ヲ記入スヘシ
改姓又ハ改名ノ場合ニ於テハ舊氏名ヲ「改」字ノ上部ニ改メタル氏名ヲ下部ニ記入スヘシ
- 第四 (二)ノ項ニハ現在調査票ノ第八ニ準シ圈點ヲ付スヘシ
- 第五 (三)ノ項ニハ現在調査票ノ第九ニ準シ圈點ヲ付スヘシ
- 第六 (四)ノ項ニハ現在調査票ノ第十二ニ準シ記入スヘシ
- 第七 (五)ノ項ニハ異動ノ生シタル日ヲ記入スヘシ若其ノ日ノ明瞭ナラサル場合ニ於テハ「不明」ト記入スヘシ

- 第八 (六)ノ項ハ異動ノ種類ヲ表示スヘキ場所ナリ調査票ニ印刷シアル十七種ノ異動中被調査者ノ屬スル異動名ノ右側ニ圈點ヲ付スヘシ若異動ノ二種以上ニ涉リタル場合ニハ其ノ各異動名ニ圈點ヲ付スヘシ
- 印刷シアル文字ヲ以テ表示シ能ハサル場合ニハ「其他」ノ下ニ朱記スヘシ
- 十七種ノ異動ヲ解説スレハ左ノ如シ
- 「開業」 從來居住ノ者ト他管ヨリ來住シタル者トニ拘ハラズ總テ其ノ市町村内ニ於テ新ニ開業シタル者ヲ云フ
- 「休業」 從來其ノ市町村内ニ開業シ居リタル者ノ一時事故ノ爲ニ休業シタル者ヲ云フ
- 「復業」 一時事故ノ爲ニ休業シタル者ノ再ヒ其ノ業ヲ開キタル者ヲ云フ
- 「廢業」 從來其ノ市町村内ニ開業シ居リタル者ノ事故ニ依リ其ノ業ヲ廢シ免狀返納ノ手續ヲ爲シタル者ヲ云フ
- 「本籍變更」 現開業者ト否トニ拘ハラズ其ノ市町村内居住者ノ本籍ニ異動ヲ生シタル者ヲ云フ
- 「族稱變更」 前同様族稱ニ異動ヲ生シタル者ヲ云フ
- 「改姓」 前同様其ノ姓ヲ改メタル者ヲ云フ
- 「改名」 前同様其ノ名ヲ改メタル者ヲ云フ
- 「他ノ市町村ヨリ來住」 前同様他ノ市町村ヨリ轉居シ來リタル者ヲ云フ
- 「一市町村内ノ轉居」 前同様從來居住ノ市町村内ニ於テ區町、大字又ハ番地ヲ轉シタル者ヲ云フ

「他ノ市町村へ轉居」前同様他ノ府縣又ハ他ノ郡又ハ他ノ市町村ニ轉居シ行キタル者ヲ云フ
 「海外移住」前同様其ノ家族ヲ遺スト否トニ拘ハラズ被調査者ノ海外ニ移住シタル者ヲ云フ
 「海外旅行」前同様被調査者ノ海外ニ旅行シタル者ヲ云フ
 「歸朝」其ノ市町村内ニ住居ヲ有シ曾テ海外ニ旅行シ歸朝シタル者ヲ云フ
 以上三種ノ異動ハ海外旅券ノ下付ヲ受ケタル日及旅券返納申出ノ日ヲ以テ異動ノ生シタル日ト做ス
 「失踪決定」其ノ市町村内ニ居住シ居リタル者ノ失踪確定ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ云フ
 「失踪取消」其ノ市町村内ニ於テ失踪確定ノ宣告ヲ受ケタル者ノ取消サレタル者ヲ云フ
 「死亡」其ノ市町村内居住者ノ死亡シタル者ヲ云フ
 第九 (七)ノ項ハ被調査者ノ住所ヲ記入スヘキ場所ナリ住所ノ變更ヲ生セサル異動ニ在テハ總テ從前ノ住所ヲ記入シ住所ノ變更ヲ生シタル異動ニ在テハ其ノ轉シ行キタル住所ヲ記入スヘシ
 海外移住ノ場合ニハ其ノ移住シタル國名ヲ記入シ失踪決定ノ場合ニハ失踪前ノ住所ヲ記入スヘシ
 他ノ市町村へ轉居シタル者ニシテ其ノ轉シタル住所ノ全部又ハ一部明瞭ナラサルトキハ其ノ明瞭ナラサル欄ニ不明ト記入スヘシ
 第十 (八)ノ項ハ被調査者ノ本籍ヲ記入スヘキ場所ナリ本籍ニ變更ヲ生セサル異動ニ在テハ從前ノ本籍ヲ記入シ本籍ニ變更ヲ生シタル異動ニ在テハ其ノ變更後ノ本籍ヲ記入スヘシ
 第十一 (九)ノ項ハ被調査者ノ族稱ヲ記入スヘキ場所ナリ族稱ニ變更ヲ生セサル異動ニ在テハ從

前ノ族稱ニ其ノ變更ヲ生シタル異動ニ在テハ變更後ノ族稱ニ圈點ヲ付スヘシ
 庚 勸諭調 市町村送致目錄 様式第十七及第十八番照
 第一 總テ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ
 第二 前部ニハ調査票ヲ發送スル市役所町村役場名ヲ記入シ且調査ヲ行フタル年及期ヲ記入スヘシ
 第三 中部ニハ調査票ノ枚數ヲ記入スヘシ
 第四 後部ハ現在調査票市町村送致目錄ノ第四ニ準シ記入スヘシ
 第五 市町村長ハ此ノ目錄ノ發送ニ際シ「備考」欄ノ餘白ニ交付ヲ受ケタル調査票ノ枚數及其ノ殘存枚數並書損枚數ヲ記載シ置クヘシ
 明治三十五年第一期以後ニ於テハ前項ノ外前期ヨリ繰越タル枚數ヲモ記載シ置クヘシ
 辛 勸諭調 郡送致目錄 様式第十及九番照
 第一 總テ記入スヘキ文字ハ朱記スヘシ
 第二 前部ハ現在調査票郡送致目錄ノ第二ニ準シ記入スヘシ
 第三 後部ニハ調査期末現在ノ所轄町村總數、市町村送致目錄枚數、調査票括數及其ノ枚數ヲ記入スヘシ
 全ク醫師藥劑師ノ異動ナキ郡ニ於テハ括數及枚數ノ下ニ斜線ヲ引キ「備考」ニ異動ナシト記入スヘシ

様式第一

醫藥師在現調查票								
(九) 現在ノ狀況	(八) 免狀ノ附日	(七) 免狀ヲ得タル事	(六) 種別	(五) 年	(四) 籍	(三) 本	(二) 住	(一) 氏名
開業シテ	明治十六年一月二十八日	奉職	醫師	西曆一千八百七十二年八月十一日生	米國	北海道及府縣	區	東市
其他			醫師					

様式第二

醫藥師在現調查票								
(九) 現在ノ狀況	(八) 免狀ノ附日	(七) 免狀ヲ得タル事	(六) 種別	(五) 年	(四) 籍	(三) 本	(二) 住	(一) 氏名
開業シテ	明治三十三年二月四日	奉職	醫師	西曆一千八百七十二年八月十一日生	米國	北海道及府縣	區	東市
其他			醫師					

様式第四

醫藥師在現調査票									
(九) 現在ノ状況	(八) 免狀ヲ得ル事	(七) 免狀ヲ得ル事由	(六) 種別	(五) 年	(四) 籍	(三) 住	(二) 氏名	北海道及府縣	支庁
開業シアリ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一三三八號	奉職開業	醫師	元治元年六月十日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣

様式第五

醫藥師在現調査票									
(九) 現在ノ状況	(八) 免狀ヲ得ル事	(七) 免狀ヲ得ル事由	(六) 種別	(五) 年	(四) 籍	(三) 住	(二) 氏名	北海道及府縣	支庁
開業シアリ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣
開業セズ	第一二五八號	奉職開業	醫師	嘉永二年九月十四日	北海道及府縣	支庁	大分	大分縣	大分縣

様式第六

現醫藥師調查票		市町村送致目錄	
北海道及府縣	郡市區(北海道)	市	町村
衛生局	再照查 初照查	再照查 初照查	再照查 初照查
種別	調查票枚數	備	役所
醫師	四二	調查票受領枚數	〇
齒科醫師	三	書損枚數	六〇
口中科	二	殘存枚數	一
整骨科	一		五
藥劑師	六		
計	五四		

様式第七

現醫藥師調查票		市町村送致目錄	
北海道及府縣	郡市區(北海道)	市	町村
衛生局	再照查 初照查	再照查 初照查	再照查 初照查
種別	調查票枚數	備	役所
醫師	一四	調查票受領枚數	二〇
齒科醫師	一	書損枚數	ナシ
口中科	ナシ	殘存枚數	三
整骨科	ナシ		
藥劑師	二		
計	一七		

明治三十四年六月 省令 内務省第十六號 醫藥師名簿編成並加除訂正規程

様式第十五

醫藥師名簿									
(九) 族	(八) 本	(七) 住	(六) 異動ノ種類	(五) シヨク	(四) 免状ノ事由	(三) 免状ヲ得	(二) 種	(一) 氏名年齢	北海道及府縣
華族	島根縣	島根縣	本籍變更	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
士族	根能縣	根能縣	族稱變更	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
平民	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十一月九日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)

様式第十六

醫藥師名簿									
(九) 族	(八) 本	(七) 住	(六) 異動ノ種類	(五) シヨク	(四) 免状ノ事由	(三) 免状ヲ得	(二) 種	(一) 氏名年齢	北海道及府縣
華族	島根縣	島根縣	本籍變更	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
士族	根能縣	根能縣	族稱變更	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
平民	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)
	比田村	比田村	改姓	明治三十四年十二月六日	外國醫學學校卒業	醫學士	醫師	宮原長五郎	郡市區(市)

明治三十四年六月 省令 内務省第十六號 醫藥師名簿編成並加除訂正規程

様式第十七

明治三十四年第一期 醫藥劑師名簿調查票 市町村送致目錄		北海道及府縣 市町村	區 町 村	役所
備考 調査票受領枚數 送付枚數	衛生局 北海道 府縣 郡 役所 市區町村	再調査 初調査 再調査 初調査	四	六〇〇 二〇〇 一〇〇 六〇〇

様式第十八

明治三十五年第一期 醫藥劑師名簿調查票 市町村送致目錄		北海道及府縣 市町村	區 町 村	役所
備考 調査票受領枚數 送付枚數	衛生局 北海道 府縣 郡 役所 市區町村	再調査 初調査 再調査 初調査	四	五〇〇 二〇〇 一〇〇 五〇〇

郡名	町村數	送致目録枚數	調査票括數	調査票枚數	備考	市前			計
						區數	橋	崎	
		一〇七	一〇七	三		一	一	一	二
						二	一	一	二
						一	六	八	一四

明治三十年 月 日

群馬縣 印

內務省衛生局御中

様式第二十一

異動事由	免狀番號	高下付日	高下付年	高下付月	高下付日	高下付年	高下付月	高下付日	異動事由	免狀番號	高下付日	高下付年	高下付月	高下付日	高下付年	高下付月	高下付日	年齢	氏名	族稱	年	月	日生

醫籍藥劑師名簿用紙

試験ハ金貳圓

- 十六 石鹼ノ定量分析ハ金五圓
 - 十七 尿ノ糖分及蛋白質ノ有無試験ハ各金五拾錢
 - 十八 石油ノ引火點檢定ハ金五拾錢
 - 十九 裁判關係諸品ノ試験ハ二種ニ付金壹圓以上金貳拾圓以下
 - 二十 第一號乃至第十八號ノ物品其ノ他大氣及瓦斯類製造品又ハ天産物ノ含有成分中ノ一成分又ハ一成分以上ヲ指定シ之カ試験ヲ依頼スルモノハ定性分析ニ在リテハ一成分ニ付金壹圓一成分以上一成分ヲ増ス毎ニ金五拾錢定量分析ニ在リテハ一成分ニ付金貳圓一成分以上二成分ヲ増ス毎ニ金壹圓
- 但シ比重燐蒸騰點ノ檢定又ハ水分、越幾斯分、灰分ノ定量ハ各金五拾錢
- 第二條 前條ノ物品ニ關シテ特殊ノ試験ヲ依頼スルモノ又ハ前條記載以外ノ物品ノ試験手数料ハ其ノ試験ノ難易及之ニ要スル時日ノ長短ニ從ヒ前條手数料ノ割合ニ準シ衛生試験所長之ヲ定ム
 - 第三條 時日ヲ限リ試験ヲ依頼スル者アルトキハ衛生試験所長ハ所務ノ都合ニ依リ之ニ應スルトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ普通手数料ノ五倍以内ヲ徵收スルモノトス
 - 第四條 報告書ノ謄本ヲ請求スル者ハ一葉ニ付手数料金拾錢其ノ翻譯文ヲ請求スル者ハ衛生試験所長ノ定ムル所ニ依リ一通ニ付手数料金五拾錢乃至金五圓ヲ納付スヘシ
 - 第五條 試験依頼人ノ請求ニ應シ衛生試験所員試験ノ爲出張スルトキハ依頼人ハ官職相當ノ旅費及試験器具ノ運搬費ヲ負擔スヘシ
- 附則

第六條 本令ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 明治十七年^十内務省告示甲第二十七號明治二十四年^七内務省令第十號及明治二十六年^十内務省令第十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治十七年^十内務省告示甲第二十七號ハ衛生試験所ニ於テ舉行スル藥品其他ノモノ検査手数料ノ件同二十四年^七内務省令第十號ハ同所ニ於ケル初回ノ検査ニ對シ不服アル者再検査ヲ請フコトヲ得ルノ件同二十六年^十内務省令第十二號ハ同所ニ於テ交付シタル報告書ノ寫及其翻譯文ヲ請求スル者ノ納付スヘキ手数料ノ件ナリ

○内務省令第十八號

明治二十二年^三内務省令第三號藥劑師試験規則中第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

明治三十四年六月二十四日

内務大臣男爵内海忠勝

第八條 受驗中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ

○内務省令第十九號

明治十六年^十太政官布達第三十四號醫術開業試験規則中第十一條ヲ第十二條トシ第十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

明治三十四年六月二十四日

内務大臣男爵内海忠勝

第十一條 受驗中不正ノ行爲アリタル者ニハ期限ヲ定メ試験ヲ許ササルコトアルヘシ

○大藏省令第九號

稅務支署ノ位置及管轄區域左表ノ通相定メ砂糖消費稅ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

明治三十四年六月一日

大藏大臣侯爵西園寺公望

明治三十四年六月 省令

内務省第十八號 第十九號
大藏省第九號

稅務支署位置及管轄區域表

稅務支署名	支署名	位 置	管 轄 區 域
大 阪	大 阪	攝津國大阪	大 阪 市
橫 濱	橫 濱	武藏國橫濱	橫 濱 市
神 戶	神 戶	攝津國神戶	神 戶 市
長 崎	長 崎	肥前國長崎	長 崎 市
廣 島	廣 島	肥前國山口、津	南高來郡
熊 本	熊 本	下ノ國	上 縣 郡
函 館	函 館	豐前國門司	下 縣 郡
		赤間關市	豐 浦 郡
		門 司 市	小 倉 市
		波島岡函館	山 越 郡
		茅部區	上 斐 郡
		山越郡	企 救 郡
			上 斐 郡

○大藏省令第十號
 明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則第五條中「土地所有權」ノ上ニ「既登記」ヲ加フ
 明治三十四年六月十八日
 大藏大臣曾禰荒助

〔參照〕
 大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則(明治二十二年四月一日)抄錄
 第五條 土地所有權ノ移轉又ハ買入ハ登記所ヨリ通知アルニアラザレバ之ヲ登録セス但シ相續ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

○大藏省令第十一號

葉煙草專賣法第六條ノ四第二項ニ依リ選定スル鑑定人ノ手當旅費支給方及同條第三項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用徴收方等左ノ通相定ム

明治三十四年六月十九日

大藏大臣曾禰荒助

- 第一條 鑑定人鑑定ニ從事シ若ハ鑑定職務ノ爲メ旅行スルトキハ其日數ニ應シ手當トシテ一日金貳圓以內ヲ支給ス
- 第二條 鑑定人公務ニ依リ旅行スルトキハ前條手當ノ外旅費トシテ別表定ムル所ニ依リ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給ス
- 第三條 旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ準據ス但同規則第九條ハ此限ニアラス
- 第四條 前各條ノ規定ハ之レヲ專賣局員ヨリ選定スル鑑定人ニ適用セス
- 第五條 葉煙草專賣法第六條ノ四第三項ニ依リ異議申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當旅費及直接鑑定ニ要スル用紙代郵便料人夫賃トス

旅費額

汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付
四錢	四錢	拾五錢

○大藏省令第十二號

本年勅令第百二十一號ニヨリテ政府ト私人トノ債務ヲ相殺シタル場合ニ於テ發スル仕拂命令ハ明治二十二年七月大藏省令第十七號ノ書式ニ準ス

明治三十四年六月二十一日

大藏大臣曾禰荒助